

19. 感染症情報センター

センター長 岡部信彦

概要

平成9年4月国立予防衛生研究所は「国立感染症研究所」と名称変更になり、それまでの感染症疫学部は発展解消し「感染症情報センター（初代センター長・井上栄博士）」が発足した。主な機能は、1) 感染症サーベイランスデータの集計、感染症情報の収集、解析、その情報の国民への提供、2) 外国の感染症機関との情報交換、3) 感染症集団発生の疫学調査、およびそれを実行する専門家の養成、4) 感染症予防制御戦略の研究および提言、5) 不明病原体に関する検索並びに研究、技術伝達、等である。

平成11年4月に施行された感染症法では、サーベイランスシステムの強化が示されている。同法に基づいた基本指針の中には患者発生状況サーベイランスと同様に病原体に関する情報の収集、分析及び提供と公開も必要であるとされている。感染症情報センター(IDSC)は、国のサーベイランス事業の中で中央感染症情報センターとして位置づけられ、地方感染症情報センターならびに都道府県等の協力を得て、感染症法に規定された1-5類感染症（平成15年11月1-5類に類型が変更された。それまでは1-4類感染症）を中心にしたサーベイランスを行っている。その後幾度か感染症法改正が行なわれているが、その都度サーベイランスの重要性が強調されている。病原体情報については WISH Net, IDSC ホームページ (<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)、病原微生物検出情報(IASR)を中心として、疾患の発生動向については感染症週報(IDWR: Infectious Disease Weekly Report)などを中心として、収集された情報の迅速な還元と公開を行っているところである。現在これらのサーベイランスシステムは、NESID (National Epidemiological Surveillance of Infectious Diseases)と総称されている。

血清疫学調査は、感染症流行予測調査事業の中で行っている。このデータ等を基礎とし、感染症対策の重要な一角としての予防接種のあり方についてのエビデ

ンスを求めること、あるいは新たに判明した感染症について過去に遡った血清抗体保有状況の検索なども IDSC の重要な業務である。

感染症発生への適切な対応の一環として実地疫学の重要性が理解されつつあるが、これにかかわる人材の育成は感染症危機管理対策上、極めて重要である。感染研では業務の一つとしてこの人材教育（実施疫学調査専門家養成コース(FETP)）が行われているが、研修実施の主体は IDSC が行っている。FETP も平成20年度には10期生を向かえた。

IDSC には、ラボ機能もある。予防接種関連疾患のウイルス診断、血清抗体保有状況、他の部の所管に属さない病原体に関すると思われる原因不明疾患の微生物学的検査、レファレンス、病原診断のための方法の開発を行っている。ことに、不明疾患のスクリーニングに関しては、感染研各専門部と競合しないような形で機能充実を図っており、また外部からの検査依頼に関して感染研の窓口機能なども要に応じて引き受けている。自治体などにおける病原体検査の標準化、検査法の伝達などの病原体診断にかかわる技術伝達講習も行っている。

IDSC は、上記のような機能を6室で分担しないしお互いに協力し合いながら、主に以下のような業務研究を行っている。

第一室（感染症対策計画室：谷口清州室長）

国内や国外における公衆衛生インパクトの強い感染症流行の早期探知、感染症対策のための計画立案とそのための研究、院内感染対策に関する研究などを行っている。また積極的疫学調査に関わる感染症実地疫学専門家の養成を行っている(Field Epidemiology Training Program)。国際的な感染症対策の枠組みを中心とした国際的な対応も一室のテーマである。国際保健規則(IHR)のNational Focal Pointは厚労省厚生科学課の他に、感染症情報センター長および感染症情報センタ

一第一室室長がその役割をになっている。1997年以來パンデミック対策は、感染症情報センター全員の協力の下、一室を中心にして感染症情報センター全体で取り組んでいる。

第二室（感染症情報室：多田有希室長）

地方感染症情報センターならびに都道府県等の協力を得て国内感染症サーベイランスデータの収集・分析、及びその結果の還元と提供を行っている。感染症情報の還元、提供は、感染症週報(IDWR)、病原微生物検出情報(IASR)、感染症発生动向調査事業年報、感染症情報センターホームページなどによって、主に同室の業務として行われている。

より良いサーベイランスのための情報解析方法の研究、システム改善、蓄積された情報の効率よいまた分かりやすい還元方法の研究、メディアとのコミュニケーションなども、二室の主なテーマである。

第三室（予防接種室：多屋馨子室長）

感染症流行予測調査事業の一環として行われている血清疫学調査(感受性調査)ならびに感染源調査の立案と実施、現行予防接種の効果と副反応に関するモニタリング、これらの結果の公表と広く一般への情報提供、予防接種対象疾患の感染症として人に与える影響(disease burden)に関する調査研究、及び今後の我が国における予防接種の有用性に関する総合的研究を行っている。また感染症研究所業務として行われている国内血清銀行の管理運営を行っている。この一環として、新たに判明した感染症について過去に遡った血清抗体保有状況の検索なども行なっている。

また麻疹対策(Measles Elimination)は世界においてまたわが国においても重要な課題であるが、国内における麻疹ゼロ作戦は、三室を中心に行っている。

第四室（病原診断室：藤本嗣人室長）

他の部の所管に属さない病原体に関すると思われる原因不明疾患の微生物学的検査、レファレンス、病原診断のための方法の開発を行っている。全国衛生微生物協議会の病原微生物レファレンスセンターのうち、アデノウイルス、ノロウイルスのレファレンスセンターを担当している。ことに、不明疾患のスクリーニン

グに関しては、感染研各専門部と競合しないような形での機能充実を図っており、また外部からの検査依頼に関して感染研の窓口機能なども果たしている。

さらに感染症に関するラボ診断法の開発なども行なっている。

第五室（細菌研修室：伊藤健一郎室長）

細菌性疾患の検査に関する情報の収集・解析、情報提供を行っている。国内外の関連機関と連携し、公衆衛生における細菌検査の技術向上・標準化等を支援している。また、公衆衛生に携わる公的機関の職員を対象に細菌検査に関する講習の立案・遂行、新規検査法の開発研究なども行っている。

第六室（ウイルス研修室：木村博一室長）

ウイルス性疾患の検査に関する情報の収集・解析、情報提供を行っている。国内外の関連機関と連携し、公衆衛生におけるウイルス検査の技術向上・標準化等を支援している。また、公衆衛生に携わる公的機関の職員を対象にウイルス検査に関する講習の立案・遂行、新規検査法の開発研究なども行っている。

麻疹対策(Measles Elimination)は世界においてまたわが国においても重要な課題であることは3室においても述べたが、ラボ診断に関しては、全国地衛研における麻疹実験室診断の標準化と強化など、ウイルス3部と協力して行なっている。

業 績

調査・研究

I. 感染症発生动向調査事業に関する研究

1. サーベイランスシステムの改善に関する研究

厚生労働省新興再興感染症研究事業として「効果的なサーベイランスの評価並びに改良に関する研究」(主任研究者 谷口清州)を組織し、感染症サーベイランスの在り方について研究を行い、アドバンスト・サーベイランスの検討、新型インフルエンザ対策やシステムの改善事業に対して技術的支援を行った。

[谷口清州、多田有希、安井良則、藤本嗣人、山下和予、重松美加、森兼啓太、砂川富正、大日康史、島田智恵、菅原民枝、井内田科子、岡部信彦]

2. 感染症発生動向調査に基づく注意報・警報システムおよび全国罹患数推計に関する研究

厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症研究事業）「効果的な感染症サーベイランスの評価並びに改良に関する研究」（主任研究者 谷口清州）の一環として、まず、定点報告疾患について、注意報・警報システム及び全国罹患数推計の検討及び検討方法の評価を継続して行い、全数報告疾患のうち3類、4類及び5類の一部について、時間的・空間的分布の解析を継続して行った。特に、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の警報発生頻度が近年継続的に、急激に上昇したことに対して、昨年度に警報発生基準値変更が必要なことを提案し、本年度にこの提案が妥当であることを確認した。また、システム上も基準値の変更を行った。

[多田有希、谷口清州、重松美加、安井良則、島田智恵、橋本修二（藤田保健衛生大学）、川戸美由紀（藤田保健衛生大学）、大田晶子（埼玉医科大学）、永井正規（埼玉医科大学）]

3. 中央感染症情報センターの視点からの感染症サーベイランスの評価と改善に関する研究

厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症研究事業）「効果的な感染症サーベイランスの評価並びに改良に関する研究」（研究代表者 谷口清州）の一環として、中央感染症情報センターの立場から、感染症発生動向調査を評価・検討してきた。今年度は「電子システム」「届出基準・届出様式の変更」「麻疹サーベイランス」について行った。特に「電子システム」についてはグラフィカルな解析ツールを作成し、麻疹速報データのHP上の公表に実際に役立てている。また、「届出基準・届出様式の変更」を腸管出血性大腸菌感染症におけるHUS発生数の把握の観点で検討し、変更が有用であったことを確認できた。「麻疹サーベイランス」は、従来の定点把握から2008年に全数把握と変更されたことを群馬県における発生状況について評価し、適切な変更であったことを確認した。今後も検討を継続し、改善を図る。[多田有希、島田智恵、阿保満（東京都健康安全センター）、鈴木智之（群馬県衛生環境研究所）、松館宏樹（岩手県環境保健センター）、森山和

郎（大阪府健康福祉部）]

4. 症候群サーベイランスの実証的研究

7月に実施された北海道洞爺湖サミット対策としてその前後2週間、計1ヵ月の期間、救急車搬送、調剤薬局、一般用医薬品について健康危機情報の収集を実施した。また、特に調剤薬局のサーベイランスについて全国約1,600の薬局の協力を得て実証的研究を行った。学校欠席情報共有システムを2市町計27校において9月以降実施し、またその情報を保健所・県庁に提供し、早期共有に貢献した。さらに、外来受診時の症状や救急車搬送における症候群サーベイランスも併せて、統合的な評価体制を試験的に構築した。

[大日康史、山口亮（北海道庁）、杉浦弘明（出雲市医師会）、菅原民枝、吉田真紀子、島田智恵、堀成美、杉下由行、安井良則、砂川富正、松井珠乃、谷口清洲、多田有希、多屋馨子、岡部信彦]

5. アメリカ合衆国の院内感染サーベイランスシステム事業への参画および研究的解析

2004年度に、財団法人ヒューマンサイエンス振興財団若手研究者育成活用事業によるCDCの院内感染対策部門へ派遣を受けて以来、本年度も引き続きアメリカ合衆国の院内感染サーベイランスシステムの改訂作業に協力した。また、手術部位感染に関する同システムに集積されたデータを用いて、日米の発生動向の相違や発生のリスク因子に関する検討を行なった。

[森兼啓太、Teresa Horan (CDC)、Mary Andrus (CDC)、Jonathan Edwards (CDC)]

6. 百日咳発生DBの構築・運用

平成19年の百日咳の集団発生を受けて、百日咳発生DBを構築し、運用した。

[大日康史、菅原民枝、山本久美、多屋馨子、安井良則、岡部信彦]

7. 有志医師によるインフルエンザDBの運用

2000年から継続して実施しているMLインフルエンザ前線情報DBの運用を今年度も継続して行い、394名の有志のご協力、73,903件のインフルエンザ症例に関する報告を得られた。このDBは麻疹や百日咳のDB

のモデルともなったもので、今後新型インフルエンザ検出・推移の把握についても有用であることが期待される。

[砂川富正、谷口清州、西藤なるを（西藤こどもクリニック）、岡部信彦]

II. パンデミック、バイオテロ、公衆衛生対策に関する研究

1. 国際保健規則（IHR 2005）の改正に伴う国内体制に関する研究

IHR の改正に伴い、今までに比べて広範囲な公衆衛生学的な国際的脅威（PHEIC）への対応が求められるようになり、WHO の加盟国は国のフォーカル・ポイントを中心とした報告機構の構築や、コア・キャパシティの確立を 2012 年までに達成することが必要となった。厚生労働省新興再興感染症研究事業「改正国際保健規則への対応体制構築に関する研究」（主任研究者 谷口清州）を組織し、米、英、仏、独、豪の先進各国における進捗状況について、報告システム、PHEIC の判断、サーベイランスに着目して情報収集と現地での担当者聞き取り調査を行い、日本が自国に最適に対応を、効率的に実践することを可能にする提言を報告書にまとめた。

[谷口清州、森兼啓太、砂川富正、重松美加、松井珠乃、山本久美、押谷仁（東北大学）]

2. 新型インフルエンザのパンデミック対策に関する研究

(1) 数理モデルを用いて、新型インフルエンザの被害を予測し、公衆衛生的対応を評価、検討した。首都圏、福岡県、仙台市、中京圏、関西圏、宮崎市、沖縄県、札幌市に加えて、弘前市、むつ市、秋田市、宍道湖中海都市圏、高知市、徳島市、富山市、新潟市において、首都圏で一例目の新型インフルエンザ感染者がでた後に、地方都市へ感染拡大したと想定したモデルを用いて、被害拡大を予測した。また政策介入として、休校、外出自粛の効果について検討した。それらの流行拡大に関して GIS（地理情報処理システム）を用いて表現し、自治体に提供した。

(2) 数理モデルに用いるパラメーターのうち、人々の行動に関する調査研究を行った。特に、パンデミック時

の外出自粛の割合、在宅勤務体制の現状、食料備蓄の現状について検討した。

[大日康史、菅原民枝、谷口清州、岡部信彦]

3. バイオテロ対策の数理モデルの開発

昨年度に引き続きバイオテロに使用される可能性のある感染症、特に天然痘、ペスト、炭疽菌に関して、数理モデルを用いて公衆衛生対応について評価した。その結果を、GIS（地理情報処理システム）を用いて地図上に表現し、より現実的に被害の探知、地域的な拡散を検討した。天然痘の数理モデルは天然痘対応指針の改訂の議論に提供し、その成果およびプログラムは厚生労働省をはじめ関係部局に提供した。本年度は特に、サーベイランスあるいは積極疫学的調査からの患者発生状況から暴露地点、日時、量を推測するアルゴリズムを検討した。

[大日康史、菅原民枝、谷口清州、岡部信彦]

4. バイオテロ対策指針の開発

「テロの可能性のある病原体等の早期検知・迅速診断法の開発とその評価法の確立に関わる研究班」主任研究者（佐多徹太郎）における臨床小班とともに、臨床医のためのガイドラインおよびホームページの改良を行った。

[谷口清州、佐多徹太郎（感染病理部）]

5. バイオテロ防止におけるバイオリスク管理、教育、訓練の方法論に関する研究

(1) 厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症研究事業「バイオリスク管理の包括的強化及び必要な教材等の開発と実践の評価に関する研究」（研究代表者：杉山和良）の研究分担として、効果的バイオリスク管理の実践のための教育方法の検討と教材作成を目標とした研究を行った。科学的なバイオリスク評価手法の確立、リスクコミュニケーションを含めたバイオリスク低減に関する意識向上活動、日常研究活動を支援する継続教育としてのバイオリスク対応の教育訓練法の検討と教材の作成提供について、米国、英国、カナダ、デンマーク、スウェーデン、国際学術団体と協力し、国際指針に基づく研修の作成、ワークショップやシンポジウムの開催、翻訳などによる情報の普及、施設毎に自己診断できる

バイオセキュリティリスク評価ツールの配布版作成のための検討、バイオリスク評価理論の確立へ向けての国際調査とリスク評価を行った。郵便事業の再編に伴う問題点の検討を行った。

(2) バイオリスク管理の国際基準作成「CEN WORKSHOP AGREEMENT 15793」の策定に続き、カナダ公衆衛生局のイニシアチブによる、バイオリスク評価手法論の確立と、同評価ツールのための基礎調査とモデル作成に着手した。

[重松美加、安藤秀二 (ウイルス第一部)、佐多徹太郎 (感染病理)、Jennifer Gaudioso (Sandia National Laboratories), Susan Caskey (同)]

6. 感染症法のリスクコミュニケーションに関する研究

厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症研究事業「感染症への国民啓発に効果的なリスクコミュニケーション方法と教育方法に関する研究」(研究代表者:丸井英二)の分担研究として、海外旅行、気候変動、パンデミックやバイオテロなどの感染症を取り巻く状況の変化から、あらゆる人にとって知識を身につけ、自己防衛することが重要となったことを受けて、効果的な感染症のリスクコミュニケーションの方法としての、映像、ゲーム、リーフレットの作成に協力し、効果的なリスクコミュニケーションのための研修方法に必要な事例情報に関する情報収集と、研修用シナリオ作成の基礎的検討を行った。

[重松美加、谷口清州]

7. バイオテロ防止およびバイオテロ下における効果的な医療体制のあり方および評価に関する研究

厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業「健康危機管理における効果的な医療体制のあり方に関する研究」(主任研究者:大友康裕)の分担研究として、感染症医療体制と災害・救急医療体制の連携方法に関する研究、特に、バイオテロ関連疾患、新型インフルエンザについて情報を収集し、救急や災害医療の役割について検討を行った。得られた情報を、同研究班のDMAT研修の場で現場の医師等に還元し、協議を行った。また、7月の洞爺湖サミット

の場において、同研究班メンバーを中心とするNBC対応チームとの協議を行うことで実際に機能した。

また、バイオテロ関連疾患、新型インフルエンザと医療体制について、課題を整理した。

[砂川富正、松井珠乃、谷口清州、岡部信彦、大友康裕 (東京医科歯科大学大学院救急災害医学分野)]

8. 健康危機情報の早期検知とリアルタイムの対策活用を可能とするシステムデザインのための研究

厚生労働科学研究費補助金 特別研究事業「健康危機情報の積極的収集と分析および健康危機管理行政への情報提供のためのシステム開発と運用に関する研究」(研究代表者:ナイジェル・コリアー)の分担研究として、日本の現状を総括し、World Wide Web上のニュース、ブログ、プレスリリース、ルーモア等から健康危機情報の早期検知を行っている世界の6つのシステムについての調査と比較解析を行った。その結果を踏まえ、言語処理技術を用いてWWW上からの情報をデータベースに保存可能な構造化情報に変換し、コンピュータによる分析者支援を実現することで、日本の将来的な健康危機情報早期検知システムのデザインに必要なアプローチ方法の提言を行った。

[重松美加、谷口清州、Nigel Collier (国立情報学研究所)、Son Doan (同)]

III. 感染症の疫学、統計等に関する研究

1. インフルエンザによる超過死亡の評価

人口動態調査の月別全死因死亡者数のデータから、インフルエンザ流行の我が国の人口動態に与える影響を、「感染研」モデルを用いてインフルエンザによる超過死亡を推定し検討した。

[大日康史、菅原民枝、谷口清州]

2. インフルエンザ関連死亡迅速把握に関する研究

18大都市から提供されるインフルエンザ関連死亡(インフルエンザ及び肺炎死亡)数を用い、「感染研モデル」と同種の超過死亡推定モデルを適用し、各都市毎の週単位の超過死亡を推定し、迅速な情報還元を行った。

[大日康史、菅原民枝、前田明日香、谷口清州、厚生

労働省健康局結核感染症課、18 大都市・特別区衛生主幹部局]

3. インフルエンザ様疾患罹患時の異常行動に関する研究

インフルエンザ様疾患罹患時に見られる異常行動について、前向き調査を重度、軽度に分けて実態把握を行い、安全性調査委員会に情報提供した。

[岡部信彦、大日康史、菅原民枝、谷口清州]

4. 手術部位感染の疫学に関する研究

日本環境感染学会の学会事業である JNIS (Japanese Nosocomial Infections Surveillance) の一環として、院内感染の中でも発生の影響が特に大きい手術部位感染に関して、医療機関で行われるサーベイランスのデータを集積し集計を行い、各施設へのフィードバックを実施した。さらに、手術部位感染のリスク因子に関する研究的解析を行い、学会報告した。

[森兼啓太、日本環境感染学会 JNIS 委員会、鈴木里和 (細菌第二部)、山根一和 (同)、筒井敦子 (同)、荒川宜親 (同)]

5. 透析施設における C 型肝炎の伝播防止に関する研究

厚生労働科学研究班「透析施設における C 型肝炎院内感染の状況・予後・予防に関する研究」(主任研究者: 東京女子医科大学・秋葉隆教授)の分担研究者として、世界における透析関連感染のデータベース調査や感染防止ガイドラインの調査を行なった。その知見に基づき、日本における透析関連感染サーベイランスのシステムを策定した。

[森兼啓太、吉田真紀子、満田年宏 (横浜市立大学)]

6. リケッチア症サーベイランスの評価

新興・再興感染症研究事業「リケッチア感染症の国内実態調査および早期診断体制の確立における早期警鐘システムの構築」(研究代表者 岸本寿男、研究分担者 岡部信彦)により、四国 4 県の内科標榜医療機関を対象としたつつが虫病、日本紅斑熱のサーベイランス認知度および診断・報告状況を調査し、自治体および医療機関へ情報還元を行った。また、大阪、兵庫等

において、一般市民のリケッチア症に関する認知度調査を行った。

[松井珠乃、佐藤弘、藤本嗣人、岡部信彦]

7. 食中毒調査の精度向上のための手法の開発

厚生労働科学研究費補助金 (食品の安心・安全確保推進 研究事業)「食中毒調査の精度向上のための手法等に関する調査研究」(研究代表者 岡部信彦)により、米国、オーストラリア等の食中毒対策の現状について調査を行った。その結果等に基づき、日本において市中で症例対照研究を実施するための基礎的な研究を実施した。

[松井珠乃、春日文子、岡部信彦]

8. レプトスピラ症に関する意識調査に関する研究

ヒト及び犬のレプトスピラ症についての、医療関係者 (医師 & 獣医師) における KAP (Knowledge, Attitude, & Practice) 調査を FETP 研修員らとともに計画し、細菌第一部 (小泉) とともに沖縄県、熊本県、佐賀県で質問票調査を実施した。(1~3 月) 現在、解析中である。

[大山卓昭、小泉信夫 (細菌第 1 部)]

9. インフルエンザ脳症の発生報告について

2007/08 シーズンおよび 2008/09 シーズンの国内におけるインフルエンザとインフルエンザ脳症の発生動向について、感染症発生動向調査による全国のインフルエンザ定点医療機関からのインフルエンザ患者発生報告と、地方衛生研究所からのインフルエンザウイルス分離報告、及び 2004 年 3 月から新たに 5 類全数把握疾患として届出対象疾患となった急性脳炎の中でのインフルエンザ脳症の発生報告を集計・解析し、その関連性と現在のインフルエンザ脳症発生例の把握システムに関する課題について考察を行った。

[安井良則、多田有希、多屋馨子、山本久美、岡部信彦、森島恒雄 (岡山大学大学院小児医科学)]

10. 性感染症 (STD) 発生動向に関する研究

厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症研究事業「性感染症に関する特定感染症予防指針の推進に関する研究」(研究代表者 小野寺昭一)の一環として、感染症法に基づきサーベイランスが実施されている性

器クラミジア感染症、性器ヘルペス、尖圭コンジローマ、淋菌感染症（以上定点把握）及び梅毒（全数把握）の発生動向を解析した。特に定点把握については、地域毎の定点数や診療科比率などを含め、サーベイランスのあり方・妥当性について、前述の研究「性感染症（STD）発生動向調査の評価と解析」と合わせて評価することが、引き続き今後の課題である。

[岡部信彦、多田有希]

11. 動物由来感染症の発生動向に関する研究

厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症研究事業「我が国における動物由来感染症の感染実体把握に資する研究」（研究者代表者 多田有希）の一環として、臨症現場における動物由来感染症の診療に役立ててもらふことを目的に、感染症法に基づき報告されている動物由来感染症のうち、E型肝炎、オウム病、日本紅斑熱、ライム病、レプトスピラ症の症状、診断方法などを、集計した。

[多田有希、佐藤弘、高山直秀（都立駒込病院）]

12. 急性脳炎・脳症の発生動向に関する研究

科学研究費補助金事業 基盤研究A「小児における急性脳炎・脳症の病態・診断・治療に関する研究（研究代表者：森島恒雄）の一環として、感染症法のもとで行われている感染症発生動向調査において2004～2008年に報告された急性脳炎・脳症の発生状況をまとめた。5年間に933例が報告され、このうち15歳未満の小児は544例報告された。933例のうち少なくとも95例の死亡が報告され、年齢中央値は9歳、最も多い病原体はインフルエンザであった。5年間に1例の報告されていない自治体もあり、報告漏れがあることも示唆された。届出の徹底、転帰の把握、病原体検索などが課題である。

[岡部信彦、多田有希]

13. 感染症疫学情報の解析・評価に関する研究

特定の感染症を患者発生情報と病原体情報の両面から総合的に解析を行った。本年度中に「病原微生物検出情報」特集記事として掲載されたテーマは、2008年4月号：アデノウイルス感染症、5月号：腸管出血性大腸菌感染症、6月号：HIV/AIDS、7月号：感染症法お

よび検疫法の改正と麻疹対策強化、8月号：細菌性食中毒、9月号：性感染症、10月号：RSウイルス感染症、11月号：インフルエンザ、12月号：レジオネラ症、2009年1月号：エンテロウイルス髄膜炎、2月号：麻疹、3月号：破傷風である。

[山下和子、赤塚昌江、加藤信子、徳永真里子、野地元子、齊藤剛仁、多田有希、安井良則、谷口清州、多屋馨子、藤本嗣人、伊藤健一郎、木村博一、岡部信彦、井上栄（感染症情報センター）、渡邊治雄（副所長、細菌第一部）、寺嶋淳、池辺忠義、倉文明、前川純子（細菌第一部）、倉根一郎、岸本寿男（ウイルス第一部）、脇田隆字、清水博之（ウイルス第二部）、田代真人、小田切孝人、駒瀬勝啓（ウイルス第三部）、荒川宜親、新谷三春、山本明彦、高橋元秀、見理剛（細菌第二部）、野崎智義（寄生動物部）、小林睦生（昆虫医科学部）、今岡浩一（獣医科学部）、佐多徹太郎（感染病理部）、森亨、石井則久（ハンセン病研究センター）、中嶋建介（国際協力室）、山本直樹（エイズ研究センター）、五十君静信、山本茂貴（国立衛研）、北島智子、藤井紀男（企画調整主幹）、宮村達男（所長）、吉倉廣（前所長）、三宅邦明、津曲淳、辻井憲一、江浪武志、小林一司、難波吉雄、蟹江誠、小島三奈、柴辻正喜、堀内直哉（厚生労働省）]

14. インフルエンザ脳症の発生報告について

2007/08シーズンの国内におけるインフルエンザとインフルエンザ脳症の発生動向について、感染症発生動向調査による全国のインフルエンザ定点医療機関からのインフルエンザ患者発生報告と、地方衛生研究所からのインフルエンザウイルス分離報告、及び2004年3月から新たに5類全数把握疾患として届出対象疾患となった急性脳炎の中でのインフルエンザ脳症の発生報告を集計・解析し、その関連性と現在のインフルエンザ脳症発生例の把握システムに関する課題について考察を行った。

[安井良則、多田有希、多屋馨子、山本久美、岡部信彦、森島恒雄（岡山大学大学院小児医科学）]

IV. 予防接種ならびに予防接種で予防可能疾患における今後の感染症対策に関する研究

1. 予防接種後健康被害報告の効果的な解析と、迅速な対策に繋げるための研究

厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症研究事業）「予防接種後健康被害審査の効率化に関する研究（研究代表者 多屋馨子）」として、現在の予防接種後健康被害救済申請の内容と、予防接種後副反応報告書の内容を合体して検討するための管理システムの構築を行った。また、海外での情報収集を行った。

[多屋馨子、岡部信彦、砂川富正、安井良則、新井智、佐藤弘、山本久美、荒木和子、北本理恵、田中敏博（カナダトロント小児病院、落合雅樹（検定検査品質保証室）]

2. 麻疹、風疹ワクチンに関する研究

(1) 麻疹排除に向けた対策の構築ならびに実施

厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症研究事業）「予防接種で予防可能疾患の今後の感染症対策に必要な予防接種に関する研究（研究代表者 岡部信彦）」の研究の一貫として、平成 24（2012）年という WHO 西太平洋地域における麻疹排除目標の達成に向けて、国が定める「麻疹対策技術支援チーム」として、国内で必要と考えられる様々な麻疹排除に関連する計画案の策定、および実施に携わった。その代表的なものとして以下を挙げる。

- 〈予防接種の徹底と接種率向上に向けた取り組み〉
 - －自治体別の定期的な接種率の評価と還元
 - －教育啓発ツールの作成・提供
 - 〈患者発生動向の評価〉
 - －全数把握制度における麻疹患者発生の評価、解析と定期的な還元
 - 〈集団発生対応〉
 - －集団発生に対する技術的助言の実施
 - 〈各種ガイドライン作成〉
 - －都道府県における麻しん対策会議のガイドライン
 - －麻疹排除に向けた積極的疫学調査ガイドライン第二版
 - －医療機関での麻疹対応ガイドライン第二版
 - －学校における麻しん対策ガイドライン
 - －医師における麻しん届け出ガイドライン第二版
- 上記の各種ガイドライン案の内容は、厚労省・文科省等との協議により修正加筆され、合意を得て感染

症情報センターホームページに順次掲載されている。2012 年の麻疹排除に向けた活動の基盤として、以降も必要なガイドラインの整備、政策への提言、各種調査の実施などが、感染症情報センターとして成されていく予定である。

[岡部信彦、多屋馨子、山本久美、佐藤弘、多田有希、山下和予、安井良則、島田智恵、谷口清州、大日康史、菅原民枝、砂川富正、松井珠乃、徳田浩一、堀成美、吉田真紀子、土田賢一、木村博一、谷口無我、山本明史、山田隆雄（厚生労働省）、高山研（厚生労働省）、小林一司（厚生労働省）、三宅邦明（厚生労働省）、草柳英雄（厚生労働省）、岡田就将（文部科学省）、成瀬幸宏（文部科学省）]

(2) 麻疹の効果的制御に関する研究

厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症研究事業）ウイルス感染症の効果的制御のための病原体サーベイランスシステムの検討（研究代表者：清水博之）の分担研究として、東京都内の医療機関に入院した麻疹患者について検討を行うとともに、平成 20 年度本研究班で作成した麻疹教育啓発 DVD を約 2000 の教育機関、行政機関、医療機関に配布した。

[多屋馨子、山本久美、谷口無我、山本明史、岡部信彦]

(3) 第 3 期・第 4 期麻疹風疹ワクチンにおける接種率向上に向けた自治体の取り組み

厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症研究事業）「予防接種で予防可能疾患の今後の感染症対策に必要な予防接種に関する研究（研究代表者 岡部信彦）」の研究の一貫として、第 3 期、第 4 期の麻疹・風疹ワクチンの接種率が高い自治体と低い自治体に対して、高かった理由、困難であった理由を調査し解析した。

[山本久美、多屋馨子]

(4) 0 歳児の麻疹に関する検討

厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症研究事業）「予防接種で予防可能疾患の今後の感染症対策に必要な予防接種に関する研究（研究代表者 岡部信彦）」の研究の一貫として、定期接種が導入される前の

0歳における麻疹の罹患状況や抗体保有状況を調査するとともに、感染経路等について検討した。

[佐藤弘、島田智恵、多屋馨子、多田有希、岡部信彦]

(5) 学校における麻疹・風疹対策に関する調査「JR中央線・京浜東北線電車内トレインチャンネル等での情報提供後調査」

厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症研究事業）「予防接種で予防可能疾患の今後の感染症対策に必要な予防接種に関する研究（研究代表者 岡部信彦）」の研究の一貫として、JR電車内のトレインチャンネルで上映したCMの効果について検討した。

[山本久美、多屋馨子、佐藤弘、岡部信彦]

(6) 学校における麻疹排除に向けた取り組みと今後の麻疹対策に関する研究

麻疹に関する知識を普及させるために、調査と啓発を兼ね備えた調査用紙を作成し、世代の違いにおける麻疹に関する意識の違いについて検討し、麻疹対策に活用した。

[多屋馨子、谷口無我、山本明史、山本久美、佐藤弘]

(7) テレビ・ラジオCM、ポスター等の媒体を用いた麻疹風しん混合ワクチン接種推進活動の効果に関する検討

厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症研究事業）「予防接種で予防可能疾患の今後の感染症対策に必要な予防接種に関する研究（研究代表者 岡部信彦）」の研究の一貫として、各種媒体を用いた麻疹啓発に関して、評価・解析を行った。

[砂川富正、知念正雄(知念小児科)、浜端宏英(アワセ第一病院)、町田孝(沖縄県)、糸数公(沖縄県)、安井良則、山本久美、山田隆雄(厚生労働省)、多屋馨子、岡部信彦]

(8) ラオスにおける麻疹・風疹とCRSの疫学

WPROにおける2012年の麻疹排除、および今後のEPI戦略にかかわる風疹の血清抗体保有状況に関して、ラオスの首都ビエンチャンに居住する小学生を対象に血清疫学調査を実施した。麻疹は、予防接種キャンペーンが実施されたため、ワクチンによる免疫の獲得が

考えられるが、風疹はラオス国内において、ワクチンは導入されていない。今後、感染等にかかわる危険因子の解析、さらなる調査を計画している。

[ペンサイ・マニライ(ウイルス第3部)、山本久美、牛島廣治(藍野大学)、駒瀬勝啓(ウイルス第3部)、渡邊治雄]

(9) 風疹に関する予防対策、今後の風疹ワクチンのあり方に関する研究

厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症研究事業）「予防接種で予防可能疾患の今後の感染症対策に必要な予防接種に関する研究（研究代表者 岡部信彦、研究分担者 平原史樹）」の一貫として、先天性風疹症候群ならびに風疹対策として、国内の風疹患者、抗体保有状況、予防接種状況を検証し風疹罹患妊娠女性に関する二次相談窓口が設置ならびに産科領域における麻疹、水痘、ムンプスなどの院内感染問題についても検討した。

[平原史樹(横浜市立大学)、奥田実加(横浜市立大学)、駒瀬勝啓(ウイルス第3部)、寺田喜平(川崎医科大学)、種村光代(種村ウイメンズクリニック)、川名尚(帝京平成看護短期大学)、多屋馨子、岡部信彦]

(10) 麻疹排除に対する効果的な社会動員に関する研究

厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症研究事業）「予防接種で予防可能疾患の今後の感染症対策に必要な予防接種に関する研究（主任研究者 岡部信彦）」の委託研究として、麻疹排除を効果的に進めるためのテレビ・ラジオ用CMを作成し、ポスターを作製した。これらのイメージキャラクターとして、沖縄県出身の歌手「Kiroro」の全面的な協力を得て起用した。CMは試験的な運用として沖縄県全域にて5-7月において放送し、その結果を約3000人規模のアンケートを実施し検証した。Kiroroを起用したCMの認知度は各年代において高かったが、3期・4期においては相対的に低く、また、麻疹の怖さが伝わらなかったとの結果となり、今後の改善が必要との結果になった。ポスターは厚生労働省・文部科学省・日本医師会の協賛として全国の保健・教育関係に数百万枚が配布された。

[砂川富正、山本久美、多屋馨子、安井良則、島田智恵、多田由紀、知念正雄（沖縄県はしか“0”プロジェクト）、岡部信彦]

3. 疾病の流行状況とワクチンの意義に関する研究

厚生労働科学研究費医薬品・医用機器等レギュレトリーサイエンス総合研究事業ワクチンの有用性向上のためのエビデンス及び方策に関する研究（主任研究者 神谷齊）の協力研究者として、三重県下3市における、ロタウイルス感染性胃腸炎の入院例の調査を行った。また、この地域でのロタウイルスの流行株の特定、さらにはこれらの結果に基づいて、ロタウイルスワクチンの我が国への導入の検討を行った。

[中野貴司（国立病院機構三重病院）、井上和正（山田日赤病院小児科）、神谷敏也（松阪中央総合病院小児科）、井戸正流（三重中央医療センター小児科）、谷口孝喜（藤田保健衛生大学ウイルス、寄生虫学講座教授）、神谷元]

4. ワクチンの需要予測

ワクチンの安定供給を目的として、毎年インフルエンザワクチンの需要予測を行った。また、ワクチン需給予測プログラム開発事業において、麻しん風しん混合ワクチン3期、4期の需要分析、Hib ワクチンの需要分析を行った。

[大日康史、菅原民枝、岡部信彦]

5. ワクチン予防可能疾患における予防接種の費用対効果分析

ワクチン予防可能疾患における予防接種の費用対効果分析をインフルエンザ、水痘、Hib ワクチンなどを対象に実施している。インフルエンザに関しては、高齢者における予防接種公費補助の効果および抗ウイルス剤の費用対効果について検討した。水痘ワクチンの公費補助を実施している自治体においては、ワクチンの有効性、ワクチン不全、軽症化も含めて検討した。

[大日康史、菅原民枝、岡部信彦]

6. 自治体における予防接種管理ソフトの改良と普及に関する研究

各自治体において、定期予防接種あるいは自治体独自の任意接種に対する公費補助を一元的に管理する予

防接種管理ソフトを改良し、普及に努めた。本年度は予防接種台帳出力機能を備えた。

[大日康史、菅原民枝、岡部信彦]

7. Hib ワクチンに関する研究

厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症研究事業）「予防接種で予防可能疾患の今後の感染症対策に必要な予防接種に関する研究（研究代表者 岡部信彦）」の研究の一貫として、Hib ワクチン接種後の健康状況調査ならびに副反応報告を迅速に収集するサーベイランス機能を構築し、無作為抽出した医療機関に調査依頼を行った。

[多屋馨子、岡部信彦、廣田良夫（大阪市立大学）、富樫武弘（札幌市立大学）]

8. 百日咳集団発生の調査に関する研究

厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症研究事業）「インフルエンザ及び近年流行が問題になっている呼吸器感染症の分析疫学研究（主任研究者 廣田良夫）」の分担研究として、高知県、秋田県、北海道における百日咳の集団発生における過去のワクチン接種の効果に関する研究を行った。百日咳は、年長者あるいは若年成人の間で流行が懸念されており、わが国においても Tdap などの年長者向けワクチンの導入が今後要検討である。その基礎データを蓄積することを目的としている。

[砂川富正、島田智恵、神谷元、田中好太郎]

9. B型ウイルス性肝炎の発生動向に関する研究

厚生労働科学研究費補助金 肝炎等克服緊急対策研究事業「肝炎ウイルス感染防御を目指したワクチン接種の基盤構築」（研究代表者 水落利明）の一環として、感染症法のもとで行われている感染症発生動向調査において報告されたB型肝炎の発生状況をまとめた。血液由来感染として重要である本疾患は、従来の母子感染対策、医療行為による感染対策に加えて、性感染症としての対策が必要と考えられた。

[岡部信彦、多田有希]

10. B型肝炎ウイルスの水平感染に関する研究

厚生労働科学研究費補助金 肝炎等克服緊急対策研

究事業「肝炎ウイルス感染防御を目指したワクチン接種の基盤構築」(研究代表者 水落利明)の分担研究として、保育施設における血液の取り扱いに関する検討を行い、B型肝炎ワクチンの universal vaccination に向けた研究を行った。

[多屋馨子、越田理恵(金沢市福祉保険局)、岡部信彦]

11. 疾病の流行状況とワクチンの意義及び健康教育、情報伝達に関する研究

厚生労働科学研究費医薬品・医用機器等レギュレトリーサイエンス総合研究事業ワクチンの有用性向上のためのエビデンス及び方策に関する研究(研究代表者 神谷齊)の分担研究として、ポータルサイト“楽天 Infoseek”、広島テレビ子育て応援団を利用した麻疹風疹予防接種に関する教育啓発に関して検討した。

[山本久美、多屋馨子、岡部信彦]

12. 日本脳炎に関する研究

(1) わが国における日本脳炎の疫学に関する検討

厚生労働科学研究費補助金(新興・再興感染症研究事業「我が国における日本脳炎の現状と今後の予防戦略に関する研究 研究代表者 高崎智彦)の分担研究として、わが国における日本脳炎の現状と、日本脳炎ウイルスに関する検討を行った。近年の日本脳炎ウイルス活動状況を感染症流行予測調査事業、調査結果から解析し、予防接種状況と合わせて検討した。

[多屋馨子、佐藤弘、新井智、岡部信彦]

(2) 日本脳炎ウイルスに関する研究

厚生労働科学研究費補助金(新興・再興感染症研究事業(我が国における日本脳炎の現状と今後の予防戦略に関する研究 研究代表者 高崎智彦)の分担研究として、2003年と2008年のブタ血清から分離したウイルス、家畜用に用いられている生ワクチン株に関してウイルス学的な検討を行った。[新井智、多屋馨子、小西英二(神戸大医学部)、高崎智彦(ウイルス一部)、倉根一郎(ウイルス一部)]

(3) 小児における急性脳炎、脳症の病態、診断、治療に関する研究

厚生労働科学研究費補助金(新興・再興感染症研究事業)「予防接種で予防可能疾患の今後の感染症対策に必要な予防接種に関する研究(研究代表者 岡部信彦)」の研究の一貫として、沖縄県における急性ウイルス性脳炎・無菌性髄膜炎強化サーベイランスを実施した。沖縄県は日本脳炎ウイルス(JEV)の浸淫地域であるが、2005年度以降の日本脳炎ワクチン接種の事実上中止により発生リスクは増加している。そのため、同年度より沖縄県福祉保健部健康増進課、沖縄県衛生環境研究所、琉球大学医学部病原生物学分野と共同で、全県的なJEV感染症強化サーベイランスが実施されている。今年度日本脳炎症例は確認されなかったが、ワクチン接種が行われていない状況下で、依然日本脳炎の感受性者は年々増加していることから、継続的な調査研究が必要である。

[砂川富正、中島一敏、山本久美、佐藤弘、多屋馨子、岡部信彦]

V. 病原体等の研究

1. インフルエンザウイルスの排出期間に関する研究

昨年度に続き、インフルエンザ患者の解熱後における感染性ウイルスの排出を調査した。検体採取方法および検体運搬保存液を改良し、インフルエンザウイルス診断キットで陽性であった小児の咽頭拭い液を急性期および解熱後採取した。MDCK細胞によるウイルス分離およびRT-PCRによるウイルスゲノムの検出と同定を行った。抗ウイルス薬の使用、ワクチン接種の有無等の点から解析する予定である。

[荒木和子、秋山千枝子(あきやま子どもクリニック)、多屋馨子]

2. インフルエンザウイルスの検出法ならびに検出部位に関する臨床的検討

厚生労働科学研究費補助金 医薬品・医療機器等レギュレトリーサイエンス総合研究事業「ウイルス感染症の対外診断薬の再評価に関する基盤整備に関する研究」(研究代表者 山口一成、研究分担者 多屋馨子)の一貫として、病初期におけるインフルエンザウイルスの増殖部位に関して検討した。RT-PCR法を用いて、インフルエンザウイルスゲノムの検出を行い、型と亜

型を決定した。また、リアルタイム PCR 法を用いて、検出部位毎にウイルス量を定量した。

また、国内で市販されているインフルエンザ迅速診断キットの感度を比較検討した。

[浜本いつき、山口展正(山口内科耳鼻咽喉科医院)、多屋馨子、荒木和子、佐藤弘、藤本嗣人、岡部信彦]

3. OPV 投与後のポリオウイルスの排出

初回 OPV 接種した乳幼児計(3名)の糞便を約 35 日間採取し、糞便中に排出されたポリオウイルス量を Real-time PCT により血清型別に検討し、排出量および排出期間について検討した。

[荒木和子、佐藤弘、多屋馨子、岡部信彦]

4. 麻疹疑い例における検査室診断の実施

2008 年に発生した麻疹疑い例(鳥取県、東京都)について、抗体価測定および遺伝子検出による検査室診断を実施した。

[佐藤弘、多屋馨子]

5. 新しいハンタウイルスの検索

動物由来感染症対策の一環として新しいハンタウイルスの検索を行った。その結果、日本のモグラ科動物の一つであるヒミズに Asama virus の感染を確認した。本ウイルスは、典型的な食虫目由来ハンタウイルスがモグラ科動物に感染し、その後定着したウイルスであることが予想された。[新井智、岡部信彦、大館智志(北大低温研)、浅川満彦(酪農大獣医)、有川二郎(北大大学院)、Jin-Won Song(韓国コリア大学)、Richard Yanagihara(米国ハワイ大学医学部)]

6. ダニ媒介性疾患発生地域における不明熱疾患の検索

ダニ媒介性疾患発生地域には、ダニ媒介性疾患が疑われるものの、感染源の明らかにならない熱性疾患の発生が認められている。その原因を検索する一環として鳥根県下のダニ媒介性疾患発生地域における不明熱疾患患者および病原体の検索を行った。その結果、ネオエリキアを含む、複数のダニ媒介性感染体の存在を確認した。[新井智、岡部信彦、田原研司(鳥根県環境衛生研究所)、石原智明(酪農大獣医)]

7. フロックドスワブのウイルス検査における有用性に関する研究

臨床検体中のウイルス採取効率の最適化をする目的で、これまで使用してきたポリエステル製スワブとフロックドスワブ(microRheologicsS.r.l)を比較した。プレートに培養した細胞に感染させたアデノウイルスをぬぐって回収されたウイルスゲノム量を比べた。その結果、フロックドスワブが平均 9.46 倍(3.59~23.4 倍)アデノウイルス DNA の回収量が高く、アデノウイルス遺伝子検査の偽陰性を防ぐ一助になることが示唆された。

[藤本嗣人、榎本美貴(兵庫県立健康環境科学研究センター)、小長谷昌未、谷口清州]

8. 高速 PCR 法によるウイルス検査システムの開発

超高速 PCR システム(HyperPCR)をアデノウイルス診断へ適用した。その結果、17 分程度でこれまでの通常のリアルタイム PCR と感度および精度でアデノウイルスを定量的に検出できることがあきらかになった。

[藤本嗣人、小長谷昌未、坪井邦雄(トラスト)、谷口清州、児玉崇(トラスト)、近平雅嗣(兵庫県立健康環境科学研究セ)、榎本美貴(兵庫県立健康環境科学研究セ)、岡部信彦]

9. PCR による脳炎患者髄液からのエンテロウイルス 71 遺伝子の検出および定量

生後 20 ヶ月の脳炎患者髄液からエンテロウイルス 71 遺伝子を検出した。患者の髄液、咽頭ぬぐい液、直腸ぬぐい液からエンテロウイルス 71 が RT-nested PCR により検出され、髄液からは pan-enterovirus RT-nested PCR を使用してエンテロウイルス 71 が検出されたシークエンシングにより同定された。リアルタイム PCR による定量で咽頭ぬぐい液、直腸ぬぐい液、および髄液はそれぞれ 1.8×10^4 、 9.8×10^4 および 1.8×10^4 コピーのエンテロウイルスゲノムを含んでいた。培養によって直腸ぬぐい液からのみエンテロウイルス 71 が分離された。

10. エンテロウイルス 71 の塩基配列に関する研究

重症事例から採集したエンテロウイルス 7 1 株の塩基配列を調べた。全ゲノム配列を解析中である。

(宗村徹也、藤本嗣人)

11. 急性胃腸炎の流行時の病原体検索

山梨県、徳島県等で発生した下痢症の流行に際して、病原体検索を実施してノロウイルスおよびロタウイルス、アデノウイルス等を検出して流行の病原体を明らかにした。

[松野重夫、藤本嗣人、村上裕子、岡部信彦]

12. 腸管凝集性付着性大腸菌 (EAggEC) の研究

既知の 4 種類の線毛遺伝子を保有しない EAggEC (*aggR* 陽性) について新しい線毛遺伝子を調べた。日本の主要な血清型 O111:H21 の株は病原関連遺伝子 *agg3B* と *astA* を保有していた。すでに明らかになっている AAF/III の遺伝子配列では *agg3* 遺伝子群は *agg3D*、*agg3C*、*agg3B*、*agg3A* と並び *astA* が逆向きに配置している。同じ配列なら *agg3B* と *astA* の forward primer の組み合わせで PCR 産物が増幅されることが予想され、試したところ予想通りの産物が増幅された。この産物の塩基配列は今までに報告されているどの線毛とも異なり、5 番目の線毛遺伝子であることが判明した。

[伊藤健一郎、蛭田徳昭(横須賀市)]

13. 急性気管支肺炎乳幼児から検出された RS ウイルス (RSV) の分子疫学に関する研究

Respiratory Syncytial ウイルス(RSV)は、乳幼児の気管支炎や気管支肺炎の主たる病原ウイルスとしてよく知られている。しかし、本ウイルスの分子疫学には不明な点が多い。そこで、2005~2006 年にかけて、入院加療を必要とした神奈川県在住の気管支肺炎乳幼児患者から分離された RSV17 株の Nucleoprotein(N)遺伝子に関する分子疫学解析を行った。その結果、10 株は Subgroup A、7 株は Subgroup B に分類された。また、各 Subgroup 間の N 遺伝子の塩基配列のホモロジーは高く(99%以上)、遺伝学的に近縁な RSV が本疾患に関与していたことが推定された。

[菅井和子 (国立病院機構横浜医療センター、塚越博之 (群馬県衛生環境研究所)、水田克巳 (山形県衛生研

究所)、木村博一、秋山美穂、岡部信彦、野田雅博 (ウイルス 3 部)、田代真人 (同)]

14. 輸入食品のウイルス汚染状況に関する研究

厚生労働科学研究費補助金 食品の安心・安全確保推進研究事業「輸入生鮮魚介類および動物生肉のウイルス汚染のサーベイランスに関する研究」(主任研究者 西尾治)により、二枚貝のウイルス汚染状況を調査し、安全性を評価するための基礎データの蓄積を目的とした。主に中国、韓国から輸入された二枚貝などについて、ノロウイルス、A 型肝炎ウイルスの汚染状況を調査した。[西尾治、田中俊光 (千葉県食品衛生検査所)、木村博一、秋山美穂、菊池正悟 (愛知医科大学公衆衛生学)]

15. Real-time RT-PCR による新たな麻疹ウイルス遺伝子定量検出法の開発

Real-time RT-PCR による麻疹ウイルス N 遺伝子の定量・検出法を開発した。新たなプライマー及びプローブの開発も行った。本法により、種々の遺伝子型 (A, D3, D5, D9 及び H1) の麻疹ウイルス遺伝子が高感度かつ特異的に定量可能になった。[秋山美穂、塚越博之 (群馬県衛生環境研究所)、水田克巳、(山形県衛生検査所)、平良勝也 (沖縄県衛生環境研究所)、秋山美穂、野田雅博 (ウイルス第 3 部)、田代真人 (同)、岡部信彦、木村博一]

VI. 学会の中での研究、貢献

1. 日本ワクチン学会

理事として、ワクチン関連トピックスの原稿作成、学会運営に関与した。

[岡部信彦、谷口清州、多屋馨子]

2. 日本小児科学会

予防接種・感染対策委員会の委員として活動した。

[岡部信彦 (委員長)、多屋馨子 (委員)]

3. 日本環境感染学会

ワクチン接種プログラム作成委員会の委員として活動した。

[岡部信彦 (委員長)、多屋馨子 (委員)]

4. 日本小児保健学会

予防接種感染症委員会の委員として活動した。

[多屋馨子]

5. 日本小児感染症学会

研究教育委員会の委員として活動した。

[多屋馨子]

情報委員会委員長として活動した [岡部信彦]

6. 日本性感染症学会

平成 20 年度性感染症学会学術大会総会の運営を行った (大会長 岡部信彦)

サーベイランス業務

I. 感染症発生動向調査事業の実施および情報の還元

1. 感染症発生動向調査 (患者情報) 全国データの集計・解析・還元

平成 11 年 4 月施行の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(平成 15 年 11 月改正法施行、平成 17 年 4 月改正法施行、平成 19 年 4 月・6 月改正法施行) に基づき、対象疾患を診断した医師、保健所、地方感染症情報センター (都道府県、政令市に設置) と連携し、感染症発生動向調査を実施している。

感染症情報センターは中央感染症情報センターとして、全数把握疾患及び週単位定点把握疾患については毎週 1 回、月単位定点把握疾患については毎月 1 回、全国データを集計し、各自治体に還元している。また、データの内容の確認及び解析を行い、感染症週報 (IDWR) や病原微生物検出情報 (IASR) として情報を公開するとともに、得られた情報を地方自治体と連携して必要な感染症対策へつないでいる。

[多田有希、安井良則、島田智恵、齊藤剛仁、佐藤弘、富澤伸五、加藤信子、大竹由里子、前田明日香、FETP 研修生 9・10 期生、神谷元、松井一乃、砂川富正、大山卓昭、岡部信彦]

2. 感染症週報の作成・発行

平成 11 年 4 月施行の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(平成 15 年 11 月改正法

施行、平成 17 年 4 月改正法施行、平成 19 年 4 月・6 月改正法施行) の主旨のもとに、感染症週報の発行を継続しており、当感染症情報センターのホームページ上に PDF 版と HTML 版とで掲載している。

感染症週報には「発生動向総覧」以外に、「注目すべき感染症」としてその時々で問題となる感染症を 1〜2 件取り上げ、詳細な解説を行い、「病原体情報」として、その時々で問題となる感染症の患者からの病原微生物検出状況を掲載している。

また、「速報」においては、主に地方衛生研究所から投稿される、国内で問題となったアウトブレイクに関する最新の記事、個々の疾患の発生動向のまとめなどを掲載し、「海外感染症情報」として WHO の感染症アウトブレイクニュースを中心に最新の海外感染症に関する記事を紹介している。その他、本年度は不十分ではあったが、「感染症の話」として感染症法に規定された疾患など感染症の解説を行い、「読者のコーナー」として外部からの問い合わせのあった質問や投稿などを多くの読者に公開している。

[岡部信彦、多田有希、安井良則、島田智恵、齊藤剛仁、森兼啓太、佐藤弘、神谷元、谷口清州、多屋馨子、山下和予、赤塚昌江、徳永真里子、加藤信子、富澤伸五、大竹由里子、前田明日香、FETP 研修生 9&10 期生、松井珠乃、砂川富正、大山卓昭、山本久美]

3. 病原体情報の収集と月報・年報の作成

病原微生物検出情報事務局において、病原体情報センター業務として、オンラインによる報告票の確認、問い合わせ、データベースの管理、集計解析、月報および年報の作成、配布に関する一連の作業を継続的に実施した。

(1) 情報処理 : NESID の病原体検出情報システムに登録された新しいデータの確認と公開処理を毎日行なった。2008 年 1 月〜2008 年 12 月の病原体検出報告数は、病原菌検出報告 (3A : 地研・保健所) は 7,572 件、病原体個票は病原菌が地研・保健所 4,030 件、検疫所 4 件、ウイルス (リケッチア、クラミジアを含む) が地研 14,662 件、検疫所 6 件、集団発生病原体票は病原菌が地研 267 件、検疫所 15 件、ウイルスが地研 837 件、ヒト以外からの病原体検出票は病原菌が地研 322 件であった。

(2) 月報の編集：本年度中に病原微生物検出情報月報が12号(第29巻)および第29巻索引が編集・印刷発行された。特集記事については英訳を行い同時に掲載した。

(3) 年報の編集：病原体情報に関する年報は、欧文による2004年年報を、Japan J. Infect. Dis., 2005 Vol.58 Supplementとして編集集中である。

(4) 感染性腸炎研究会に参加する都市立感染症指定医療機関が入力した感染性腸炎患者調査票959件についてデータの確認と集計を行ない、年度末の総会資料および感染症学会発表資料として提供した。

[山下和予、赤塚昌江、加藤信子、野地元子、徳永真里子、齊藤剛仁、岡部信彦]

4. 感染症発生動向調査 週報・月報 速報データの作成・公開

感染症発生動向調査により集計された報告数を、感染症週報での公開(通常金曜日)より早く公開するため、2008年第47週から、速報データとしての公開を実施している。

[島田智恵、前田明日香、加藤信子、安井良則、多田有希]

5. インフルエンザ流行レベルマップの作成

感染症発生動向調査により得られた全国のインフルエンザ患者発生動向を、過去の患者発生状況をもとに設けられた基準値に基づいて解析し、保健所ごとに警報レベル、注意報レベルを超えたことを情報還元するための「インフルエンザ流行レベルマップ」を作成し、毎週火曜日に感染症情報センターのホームページ上にアップデートした。コメント欄には、最新の患者発生状況と病原体情報から得られたインフルエンザウイルス分離結果を合わせて掲載している。2008年度は2007/2008年シーズンに含まれる2008年第14週～第20週、2008/2009年シーズン中の2008年第45週～2009年第13週までのインフルエンザ流行レベルマップ作成を行った。

[安井良則、柴田博子、多田有希、谷口清州]

6. 麻しん速報グラフの作成

感染症発生動向調査により得られた麻しんの報告

をもとにグラフ及び日本地図を作成し、毎週火曜日に感染症情報センターのホームページ上に公開した。この公開は2008年第3週から新たに開始したものであり、週別報告数(第1週～当該週の棒グラフ)、都道府県別報告数(当該週分の棒グラフ)、都道府県別病型別報告数(第1～当該週累積分の棒グラフ)、都道府県ワクチン接種歴別報告数(第1～当該週累積分の棒グラフ)、年齢群別ワクチン接種歴別報告数(第1～当該週累積分の棒グラフ)、都道府県別累積報告数(第1～当該週累積分の日本地図)、都道府県別報告状況(第1～当該週の週毎の日本地図)の7種類の作成を行った。

[島田智恵、前田明日香、徳永真里子、加藤信子、山下和予、安井良則、多田有希、阿保満(東京都健康安全研究センター)]

7. 麻しん報告数のWHO西太平洋事務局への報告

感染症発生動向調査により得られた麻しんの報告数をもとに、WHOの報告形式に適合した集計表を月毎に作成し、WHO西太平洋事務局に報告した。

[島田智恵、山下和予、安井良則、多田有希、岡部信彦]

II. 感染症発生動向調査のシステムに関する業務

「感染症の患者の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく、感染症発生動向調査は、1999年4月の法制定以降、厚生労働行政総合情報システム(WISH)上に構築され運用されていたが、システム稼働後の法改正に未対応の部分がある等の課題があったことから、再構築することとされた。システムの方向性・概要については、検討するため立ち上げられた「発生動向調査システム開発事業評価委員会(委員長:谷口清州)」により示された。2006年4月に新たなシステム(NESID)が稼働開始された。NESIDシステムでは、中央データサーバーに、感染症発生動向調査(患者情報及び病原体検出情報)にとどまらず、疑い症例調査支援、症候群サーベイランス、感染症流行予測調査、インフルエンザ関連死亡、インフルエンザ施設別発生状況、さらに結核登録者情報に関する複数のシステムが統合され、一元的に管理されている。

2005年度にはシステムの開発に当たり、具体的な技術的支援を行ったが、2006年度以降は、システム稼働

後の改良点の検討を継続して行うとともに、法改正等に伴って必要となった改修に関わっている。

1. 感染症発生動向調査（患者情報）システム

2006年4月から運用開始した感染症発生動向調査システムのうち、感染症発生動向調査（患者情報）では、厚生労働省、システム開発会社とともに、法改正等による対象疾患の追加・変更や保健所の統廃合など関連した改修事項について、適宜対応している。また、システム稼働開始後に発生した問題点や改善すべき点（通信速度が遅い、全国集計に時間を要する、保健所の登録・修正を地方感染症情報センターが迅速に把握する機能がない、届出様式に応じた入力作業ができないものがある、取得データの内容が不十分など）について検討し、可能な限り順次改修を行ってきた。今後も改良すべき点、その解決方法を検討・実行していく。

[多田有希、安井良則、島田智恵、加藤信子、富澤伸五、大竹由里子、前田明日香、柴田博子、谷口清州]

2. 病原体検出情報システム

2006年5月6日に運用開始した病原体検出情報サブシステムは、前年後に引き続きまだ不具合が発生しているため、逐次プログラム修正の検証を行なっている。また、ボカウイルスなど新しく発見された病原体や型別追加に対応するため、随時コードの追加・変更を行って、最近の情報の収集・還元・公開を可能にしている。

[山下和予、赤塚昌江、徳永真里子、野地元子]

3. 感染症流行予測調査システム

2006年4月から運用開始した感染症流行予測調査システムは、運用3年目に入り2008年度のデータ登録、集計、検索など一連の作業が滞りなく行われた。しかし、以前から各自治体より要望されている担当者の作業時間の負担を軽減するための改善はまだ実現されていない。データ登録の効率化と確実性を図る改善を今後も引き続きの課題としてシステム改善を検討していく。

[北本理恵、佐藤弘、多屋馨子]

Ⅲ. 感染症に関する情報収集・発信業務

1. 各種疾患別情報および新着情報などのインターネットホームページへの掲載、更新、維持

感染症発生動向調査の各種集計および解析結果、時系列グラフ、地図グラフをホームページ上に掲載し、定期的に更新、維持管理を行った。各種疾患別情報および新着情報、およびインフルエンザ様疾患発生報告のページについても内容を検討し、HTMLファイル等の作成、維持管理を行った。

[大竹由里子、前田明日香、安井良則、森兼啓太、島田智恵、多田有希、加藤信子]

2. 海外感染症情報の収集と評価

WER (WHO)、MMWR (米国 CDC)、Eurosurveillance Weekly (EU)、Health Protection Report (英国)、Health Protection Scotland Weekly Report (スコットランド)、Communicable Disease Intelligence(豪州)、あるいは、その他種々のウェブページ上での感染症情報を収集・評価し、必要な情報を関係機関に提供した。

[岡部信彦、多田有希、安井良則、島田智恵、齊藤剛仁、神谷元、FETP 研修生 9期&10期生、浜本いつき、菅原民枝、森兼啓太、大山卓昭、砂川富正、松井一乃、大日康史、谷口清州、多屋馨子]

3. 感染症流行時の情報発信

感染症情報センターのホームページ上にはフォーカスのコーナーがあり、話題となる感染症や大きく流行して国民に大きな影響を及ぼす可能性のある感染症についての情報提供を行っている。2008年度にはインフルエンザのコーナーにおいて流行状況やインフルエンザに関する Q&A を掲載し、またインフルエンザ流行レベルマップの更新情報を掲載した。鳥インフルエンザのコーナーでは、WHO のホームページに掲載されている情報を日本語訳して掲載し、またその他の情報についても提供を行った。百日咳のコーナーでは、百日咳の流行状況や2008年から開始した百日咳 DB (データベース) を掲載し、情報の提供を行った。2007年、2008年に10代、20代を中心に流行した麻疹については、国内の流行状況に関する情報、対策のための各種ガイドライン、Q&A 等、様々な情報の提供を行った。

[安井良則、多田有希、島田智恵、山下和予、大竹由里子、前田明日香、加藤信子、森兼啓太、佐藤弘、山

本久美、多屋馨子、大日康史、菅原民江、岡部信彦]

IV. 感染症流行予測調査事業に関する業務

1. 感染症流行予測調査報告書の作成

厚生労働省健康局結核感染症課及び感染研関係各部と共同で、平成 18 年度（2006 年度）報告書を作成した。

[多屋馨子、佐藤弘、山本久美、北本理恵、谷口無我、山本明史、荒木和子、浜本いつき、新井智、岡部信彦]

2. 感染症流行予測調査結果速報の発信

平成 20 年度感染症流行予測調査のうち、インフルエンザ HI 抗体保有状況を 2008 年 11 月 28 日から 2009 年 1 月 23 日まで計 3 回、ブタの日本脳炎 HI 抗体保有状況を 2008 年 7 月 4 日から 11 月 28 日まで計 18 回、ならびにポリオ、日本脳炎、風疹、麻疹の抗体保有状況、予防接種状況を速報としてホームページ上に公開した。

[佐藤弘、多屋馨子、北本理恵、山本久美、荒木和子、新井智、岡部信彦]

3. 感染症流行予測調査実施要領の作成

厚生労働省健康局結核感染症課と共同で、平成 20 年度版を作成した。

[多屋馨子、佐藤弘、谷口無我、山本明史、山本久美、北本理恵、荒木和子、新井智、岡部信彦]

4. 感染症流行予測調査システムの運用

平成 18 年 4 月に稼働した感染症流行予測調査システムの各自治体におけるデータ入力サポート、およびトラブルに対する調査、対応をおこなった。

また、集計を迅速におこない、一部をホームページに公開した。

[北本理恵、佐藤弘、多屋馨子、岡部信彦]

5. 事務局業務

厚生労働省健康局結核感染症課、都道府県、都道府県衛生研究所、感染研関係各部との密接かつ円滑な連携を保つための業務を行った。衛生微生物技術協議会の関連会議として感染症流行予測調査事業担当者会議を開催し、当該年度の調査に対する注意点や変更点な

どの説明や検査現場の声を関係者が共有化する場を設け事務局として業務の円滑な運営を進めている。

[多屋馨子、佐藤弘、山本久美、北本理恵、荒木和子、新井智、岡部信彦]

V. サーベイランス事業の支援

院内感染対策サーベイランス事業の支援

厚生労働省事業として行われている「院内感染対策サーベイランス」を支援する、厚生労働科学研究費補助金「薬剤耐性菌の発生動向のネットワークに関する研究」（主任研究者：細菌第 2 部・荒川宜親部長）の分担研究班：「院内感染サーベイランスにおける解析結果の還元・提供に関する研究」および同分担研究班：「手術部位感染症における効果的な感染症発生動向の把握と感染症リスク因子解析に関する研究」に対して横断的に担当し、解析結果のフィードバックに関するアンケート調査や、入力支援・データ提出・解析・フィードバックの流れを一元的に管理できるソフトウェアの開発に参画した。

[森兼啓太、岡部信彦、荒川宜親（細菌第 2 部）、鈴木里和（同）、山根一和（同）、筒井敦子（同）、小西敏郎（NTT 東日本関東病院）、針原康（同）、キョウウェアソリューション株式会社、清哲郎（厚生労働省医政局指導課）]

VI. 感染症情報の収集、評価及び予防対策の策定

1. 国際的な感染症対策の枠組みに係わる技術支援

世界保健機関により行われている国際保健規則（IHR）の改正に関連して、その条文を技術的に検討し、また作業部会において IHR2005 における core capacity requirement についての議論を行った。またバイオテロ対策やパンデミック対策において、G7+メキシコの GHSAG の会議に参加し、技術的な支援を行った。また政府間調整会議で議論を行った。ASEAN+3 における新興感染症プロジェクト、あるいは GHSAG のリスクコミュニケーション会議に参加し、国際的な対応計画の策定に協力した。

[砂川富正、重松美加、森兼啓太、松井珠乃、山本久美、大日康史、埴田有希、安井良則、谷口清州、岡部信彦]

2. 生物学的製剤に起因する感染症に関する安全性 関連情報収集業務

移植片、輸血、タンパク製剤など生物由来の医療関連材料によると考えられる感染症を、早期に把握し、情報提供することにより、健康被害の拡大を防ぐことを目的とした情報収集と、そのためのシステム構築し運用した。昨年度までに収集した評価済み情報データベースの維持を行い、2008年度の報道機関ニュースと、各国および国際的機関の公式情報を毎日、国内外の文献情報を定期的に収集し、生物学的製剤に関連を検討評価し、データベースに蓄積した上で、事務局として、生物学的製剤由来感染症評価検討委員会へ提出し、その調査、対応の緊急性を評価し、感染症研究所として科学的見知からコメントし、関係諸機関へ報告した。既存の情報検索および蓄積・検索データベースのシステムの改良と、より良い検出アルゴリズム開発、言語学的処理技術を駆使した情報選別の技術導入等に関しての検討を開始した。

[谷口清州、重松美加、多屋馨子、柴田博子、岡部信彦、渡邊治雄（副所長）]

3. 鳥インフルエンザの世界的流行況アジア的発生 に対する情報収集とヒト流行への予防的対策

2003年末からアジアで発生している鳥インフルエンザ（H5N1）に関して、WHOやOIE（国際獣疫事務局）より発信された情報を整理し、随時日本語に翻訳し情報センターのホームページに掲載し、国民の情報ニーズに対応した。並行して、日本で鳥インフルエンザからのヒトでのパンデミック発生に備えた対応計画のための情報収集と指針作成を行った。

[森兼啓太、砂川富正、大山卓昭、FETP 9期&10期、大竹由里子、前田明日香、谷口清州、岡部信彦]

4. インフルエンザパンデミック対策

アジア各国でのH5N1亜型ウイルスの人感染を受け、パンデミックのフェーズ4以降についても国家対策が必要となり、厚生労働省の新型インフルエンザ対策行動計画の改定とガイドラインの作成が行われた。この過程の議論に参加し、科学的な支援を行った。また、これに伴う感染症法上の新型インフルエンザの取り扱いの変更などの検討について、国際情勢の情報収集と

提供、サーベイランスシステムの準備などを行った。また、個人および一般家庭・コミュニティ・市町村、事業者・職場などの各種の設定における指針の改定および作成に、新型インフルエンザ対策専門家会議委員として協力した。

[安井良則、砂川富正、森兼啓太、山本久美、多屋馨子、大日康史、神谷元、谷口清州、岡部信彦、]

5. インフルエンザパンデミック対策流行期における インフルエンザ総合対策（強化サーベイランス、 電話、メール問い合わせおよびウェブ情報の提供）

インフルエンザのQ&Aを提供した。医療従事者およびそれ以外からの要望がある情報も掲載した。インフルエンザホットライン業務を12月から3月までの平日日中時間帯に実施した。

[岡部信彦、谷口清州、多屋馨子、重松美加、森兼啓太、松岡静香、多田有希、安井良則、大山卓昭、砂川富正、FETP 研修生 8期&9期]

国際協力関係業務

I. 国際的調査協力及び支援

1. GHSAG に対する技術支援

G7国とメキシコによる、Global Health Security Initiativeの技術的なWGであるGHSAGに対して、2007年に同リスクコミュニケーションとリスクマネジメントのWGが発案したCBRN早期検知と早期対応のプロジェクト（EAR Project）について、アジアの中の日本の立場から議論に参加し、情報インテリジェンスに関しての技術支援を行った。

[重松美加、Nigel Collier（国立情報学研究所）、谷口清州、牧野友彦（厚生労働省大臣官房厚生科学課）]

2. WHO に対する技術的支援

WHOあるいはその地域事務所の活動に関して、GOARN会議、その他の国際会議へ出席やガイドラインの作成、会議における議長あるいは副議長担当など、技術的支援、貢献を行った。

[森兼啓太、砂川富正、松井珠乃、重松美加、谷口清州、多屋馨子、多田有希、岡部信彦]

3. インドネシア FETP との交流および同国におけるサーベイランス強化支援

国際医療協力研究委託事業「感染症アウトブレイクに対する効果的な国際協力のあり方に関する研究」の費用を用いて、2008年9月より再開され、同国内外において活躍が期待されるインドネシア FETP との交流を行った。具体的には、インドネシア大学（ジャカルタ）およびガジャマダ大学（ヨグヤカルタ）に設置される同プログラムを訪問し、日本との比較、課題について協議した。

[砂川富正、村上仁（国立国際医療センター）]

4. JICA インドネシア鳥インフルエンザサーベイランス強化プロジェクト支援

2008年10月から開始されたJICAによる同プロジェクトの先遣調査隊として、7月にインドネシアにて調査を行った。また、プロジェクト開始後は、インドネシア南スラウェシ州にて、現地に於ける支援を行った。今後、本プロジェクトは3年をかけて行われることとなり、継続的な協力を行っていく。また、平成21年4月25日、26日 Indonesia, Makassar, South Sulawesiにて行われた新型インフルエンザアウトブレイクの演習へも参加した。

[砂川富正、島田智恵、神谷元、吉田真紀子、田中好太郎、谷口清州、岡部信彦]

II. 国際研修

海外からの来所者への感染症情報センターの活動および感染症対策に関する情報提供と広報

国立国際医療センター海外研修生、JICA 留学生、各国保健医療および政府関係者などの来所時に、感染症情報センターの活動、国内感染症の発生動向、国内および国際連携による感染症対策の現状、予防接種、鳥インフルエンザを含む国際感染症対策、パンデミック対策などについての研修、病原体情報の説明、情報提供、広報業務をおこなった。

[岡部信彦、谷口清州、藤本嗣人、大日康史、重松美加、森兼啓太、大山卓昭、砂川富正、山下和予、埴田有希、多屋馨子、山本久美]

研修業務

I. 感染症危機管理およびそれに関わる人材養成（実地疫学専門家養成プログラム）に関する業務

1. 全般実施状況

FETP の実施は10年目となり、平成20年4月、10期生4名（山岸拓也、土橋西紀、富岡鉄平、高橋秀明）を迎えた。平成21年3月には9期生6名（池田雄史、田中好太郎、掘成美、吉田真紀子、杉下由之、土田賢一）が研修終了した。また平成13年度から継続して招聘していた長期コンサルタント Dr. John Kobayashi（Washington University, 米国）は、本年度から短期コンサルタントとして招聘することになった。

2. 感染症集団発生事例に対する実地疫学調査協力

平成20年度において、実地疫学専門家養成プログラム（FETP）は、以下の感染症集団発生事例に対して、地方自治体からの要請を受けて調査協力を行った。施設内呼吸器感染症集団発生事例（静岡県藤枝市）
細菌性赤痢集団発生事例（福岡県福岡市）
レプトスピラ症集団発生事例（沖縄県那覇市・名護市）
施設内アシネトバクター分離症例集積事例（福岡県福岡市）

3. 研修活動

FETP のトレーニングの一環として、初期導入研修前期（John Kobayashi ; 4月）、初期導入研修後期（John Kobayashi, Chan-Hsien Chiu, & Donald Dah-Shyong Jiang; 7-8月）とともに、性感染症の予防と対策（Somesh Gupta; 12月）、国際的なインフルエンザ・パンデミック対応（Tim Uyeki ; 2月）、アフリカにおける感染症対策（Afari : 2月）に関するセミナーを開催した。

4. 教育研修経験

教育経験のための研修として、全国感染症危機管理研修会、新型インフルエンザ対策ブロック会議での講義、地方自治体の感染症危機管理研修会（秋田県、群馬県、京都、沖縄県、大阪府等）での講義・討論をおこなった。

5. 感染症疫学研究

平成20年度に研修終了した9期生が以下の長期プロジェクト研究発表をおこなった。

同時に論文作成し、国立保健医療科学院健康危機管理分野特別論文として提出して、公衆衛生学修士 (MPH) を所得した。

「結核病棟および一般病棟を有する病院における、結核病棟看護職員、一般病棟看護職員の間での、QFT を用いた結核感染率の比較と検討」池田雄史、「小児におけるペニシリン中等度耐性肺炎球菌を起因菌とする急性中耳炎の関連因子について」田中好太郎、「HIV 感染症診療におけるパートナー健診勧奨の現状と課題」堀成美、「調剤薬局ネットワークの構築とインフルエンザ・サーベイランスシステムに関する研究」吉田眞紀子、「救急搬送サーベイランスの早期警告システムとしての有用性についての検討」杉下由之、「医療機関の感染症の発生動向に関する情報の入手と活用に関する研究」土田賢一。

6. 感染症サーベイランス活動

毎週ごとに収集されるサーベイランス報告対象疾患の情報を監視・解析し、必要に応じて地方自治体とともに公衆衛生的介入を実施した。腸管出血性大腸菌感染症サーベイランスに対する情報交換・還元、レプトスピラ症の発生動向、性感染症の発生動向に基づいた提言、麻疹症例増加に対する予防接種推奨、等。

7. 感染症情報の還元

感染症サーベイランス、感染症集団発生事例に対する実地疫学調査協力などで得られた情報を病原体検出情報 (月報)、感染症週報などを通じて一般住民、公衆衛生従事者などに還元した。また、インフルエンザ流行時期 (10 月～3 月) には、一般住民からのインフルエンザに関する問い合わせ、公衆衛生・医療関係者からの予防接種対象疾患 (麻疹、百日咳など)、鳥インフルエンザ等に関する問い合わせ (電話・電子メールなど) に対応した。

[岡部信彦、FETP 9 期&10 期、感染症情報センタースタッフ一同]

II. 感染症危機管理研修会

感染症情報センターが事務局を務め、平成9年度より定期的に実施している感染症危機管理研修会を9月18日、19日に開催した。2008年度の事務局は、砂川富正、

大山卓昭、長壁美智子が担当した。研修内容として、「国の危機管理体制について」「感染症法改正について」「予防接種に関する政省令の変更について」「わが国におけるプレパンデミックワクチン開発の現状と臨床研究」「公衆衛生対応について—自治体で検討すべきこと—」「Phase5以降における疫学調査 (試案) とリスクコミュニケーションについて」「インフルエンザの新しいワクチン (粘膜ワクチンを中心に)」「行政検査に欠かせない病原体採取方法の一般的な原則について」「医療器具による感染リスクとその対策について」「アウトブレイク対応の実例① 大学で発生した百日咳に対する対応」「アウトブレイク対応の実例② 静岡県藤枝市における肺炎集団発生事例」「アウトブレイク対応の実例② 秋田県における麻疹対応 (大館市事例を中心に)」「麻疹排除計画初年度の状況」「ワクチンの考え方」「改訂国際保健規則 (IHR2005) 導入の国内外における進捗状況」「国際的な感染症の移動—最近の昆虫媒介感染症の動向を例に—」「食中毒、特に広域事例の動向・対策について」「感染症集団発生時の疫学調査」、感染症集団発生時の疫学調査に関するケーススタディ演習等を行った。全国の感染症担当部局、保健所、衛生研究所から100数十名の受講者があった。

[感染症情報センター一同]

III. 国立保健医療科学院による研修

1. 国立保健医療科学院による新興再興感染症技術研修の実施

国立保健医療科学院による新興再興感染症技術研修を、平成20年11月4日から11月21日まで、感染症研究所村山庁舎で行った。地方衛生研究所あるいは保健所において細菌検査業務に従事する中級者を対象として、細菌学の体系的な理解と新しい知識及び技術の習得を目的としている。保健所・地方衛生研究所合計20名であった。本研修は感染症情報センターを初めとして、感染研関連各部室、名古屋検疫所、東京都安全健康研究センター、神奈川県衛生研究所、岡山県環境保健センター、大分県衛生環境研究センター、海事検定協会の協力を得て遂行された。

[伊藤健一郎、木村博一]

2. 短期研修ウイルス研修

国立保健医療科学院による特定課程新興再興感染症技術研修を、平成20年9月30日から10月30日まで、国立感染症研究所村山庁舎で行った。地方衛生研究所あるいは保健所においてウイルス検査業務に従事する専門職員を対象として、種々のウイルスの新しい知識及び検査技術の習得を目的としている。受講生は、地方衛生研究所23名であった。本研修は感染症情報センターをはじめとして、感染研関連各部室、群馬県衛生環境研究所の協力を得て遂行された。[木村博一、伊藤健一郎、秋山美穂、岡部信彦]

IV. その他の研修の実施

1. 希少感染症診断技術向上事業に関する業務

平成20年度は対象疾患（および病原体）として、麻疹・風疹、アルボウイルス（チクングニヤウイルス）、インフルエンザウイルス、アタマジラミ、リフトバレーウイルス、赤痢、野兔病・ブルセラ症、寄生虫症（原虫症、アニサキス症など）、ダニ媒介性感染症（リケッチア症など）が取り上げられた。また、法改正に伴う病原体管理についても講義された

研修会は平成20年2月、当感染研で2日間、全国の地方衛生研究所の技術担当者を対象に二日間開催され、72地研、約128名が参加した。それぞれの疾患はウイルス第一部、ウイルス第二部、ウイルス第三部、細菌第一部、ウイルス第三部、寄生動物部、生物活性物質部、昆虫医科学部、獣医科学部、感染症情報センター等の協力により行われた。

[藤本嗣人、松野重夫、岡部信彦、倉根一郎（ウイルス第一部）]

2. 医師卒後研修

国立感染症研究所で開催された医師卒後研修の一貫として、予防接種に関して研修を行った。

[多屋馨子]

その他

I. 情報提供及び広報活動

1. 電話、メールによる問い合わせ業務

予防接種、麻疹、風疹、ポリオ、人獣共通感染症、SARS、パンデミック、インフルエンザ、鳥インフル

エンザ、下痢症ウイルス等、その他感染症に関する電話、メールによる問い合わせに対応した。一般からの電話相談が最も多く、特に、メディアで報道された場合、電話問い合わせが殺到した。医療従事者、自治体、保健所、メディア等を含めて、年間の問い合わせ件数は、研究者1人あたり、電話約500-1000件、メール約50-100件である。

[岡部信彦、谷口清州、重松美加、森兼啓太、神谷元、多田有希、安井良則、多屋馨子、佐藤弘、山本久美、藤本嗣人、松野重夫、伊藤健一郎、木村博一]

2. 来所者への感染症情報センターの活動および感染症対策に関する情報提供と広報

国内生徒、学生の修学旅行や社会見学などの来所時に、感染症情報センターの活動、国内感染症の発生動向、国内および国際連携による感染症対策の現状、SARSを含む国際感染症対策、パンデミック対策などについての情報提供、広報業務をおこなった。

[岡部信彦、谷口清州、重松美加、森兼啓太、砂川富正、中島一敏、多田有希、安井良則、多屋馨子、佐藤弘、山本久美、藤本嗣人]

3. メディアへの対応

メディアからの問い合わせに対しては、通常は情報センター内に於いて問い合わせ内容別に担当者を決め、取材等に依頼に応じている。

平成15年SARS対応時には、メディアからの取材依頼殺到に応じるため、1週間に1回定例としてSARSに関し、行政発表とは異なった科学的視点からの解説、状況説明を行った。これをきっかけにメディア希望者に対して毎月1回、情報センター・メディア感染症情報交換会として、感染症情報の提供、解説、意見交換を行っている。話題として、病原体検出情報(IASR)の特集を取り上げるほか、その都度のトピックスを取り上げている。また緊急的に伝えた方がよいと考えられた時（例：ウエストナイル熱本邦初発症例、鳥インフルエンザ国内発生例対応、パンデミック対策ガイドライン解説、麻疹流行状況、百日咳流行状況、食中毒情上、およびこれらの予防対策など）には、臨時に開催し、コメントを出すようにしている。感染研としての公式発表ということではなく、あくまで情報

センターからの科学的情報提供、としている。情報提供は主に感染症情報センター長および適時情報センタースタッフとしているが、IASR 特集のように感染研内部の担当専門者に依頼することもある。本会の登録者は 100 社、150 人以上となっており、Risk communication の一手段として、メディア側の協力も得て継続、実施している。

[岡部信彦、情報センタースタッフ一同]

II. 血清銀行に関する業務

1. 血清の保管および血清払い出し業務

感染症流行予測調査事業のため各都道府県において収集し用いた後の余剰血清のうち、国内血清銀行での保管の承諾が得られた血清を受け入れ、保管した。平成 20 年度に受け入れた血清は、計 3,777 であった。また、血清使用申請があった場合には血清銀行委員会の審査後払い出しを行っている。平成 20 年度は申請がなかったため、払い出しは行わなかった。

[多屋馨子、荒木和子、谷口無我、山本明史、佐藤弘、山本久美、新井智、岡部信彦]

2. 職員血清の保管業務

平成 20 年職員血清、計 474 本を受け入れ保管した。

[佐藤弘、谷口無我、荒木和子、多屋馨子、山本久美、新井智、岡部信彦]

III. 予防接種に関する業務

1. 予防接種情報公開に関する業務

(1) 感染症情報センターHP 内に日本の予防接種スケジュール 2008 を公開した。

(2) 感染症情報センターHP 予防接種のページを更新した。

[多屋馨子、前田明日香、佐藤弘、山本久美、岡部信彦]

IV. レファレンス業務

アデノウイルスレファレンスセンターとして難同定アデノウイルスの同定を行った。また、アデノウイルス分離用細胞を分与した。アデノウイルス検査法について検討し、地方衛生研究所の検査支援を行い、検査法の標準化に取り組んだ。

ノロウイルスレファレンスセンターでは 2007～

2008 年シーズンに引き続き、2008 ～2009 年シーズンも全国の衛生研究所の協力のもとに、PCR 産物の提供を得て民間の会社に遺伝子解析を委託して調査を実施した。

[岡部信彦、藤本嗣人、松野重夫、小長谷昌未、荒木和子、村上裕子]

V. 公的機関の委員

新型インフルエンザ専門家会議委員

[岡部信彦、森兼啓太、谷口清州、多屋馨子、安井良則、大日康史、山本久美]

ワクチン産業ビジョン推進委員会

[岡部信彦、大日康史]

ワクチン産業ビジョン推進委員会ワーキンググループ

[多屋馨子、神谷元]

厚生労働省 予防接種健康被害認定部会/分科会

[岡部信彦 (委員長)、多屋馨子 (委員)]

厚生労働省 予防接種後副反応・健康状況調査検討委員会

[岡部信彦、多屋馨子]

厚生労働省 薬事・食品衛生審議会

[多屋馨子 (専門委員)]

独立行政法人医薬品医療機器総合機構専門委員

[多屋馨子]

厚生労働省 薬事・食品衛生審議会食中毒部会委員

[谷口清州]

VI. 学校 (大学、大学院等) における教育への参加

以下の教育機関より、非常勤講師、客員教授などの委嘱 (併任、兼任) を受け、医学教育等への参加を積極的に行っている。

谷口清州

- ・ 北海道大学大学院医学研究科非常勤講師 (感染症学)
- ・ 聖母大学非常勤講師 (国際保健)

大山卓昭

- ・ 京都大学大学院社会科学系非常勤講師 (環境科学『フィールド・エビデミオロジー』)
- ・ 大阪大学大学院医学系研究科非常勤講師 (国際疾

感染症情報センター

病疫学)

- ・ 東京医科歯科大学医学部医学科 (公衆衛生実習)
- ・ 長崎大学熱帯医学研究所 (長崎大学熱帯医学研修課程)

大日康史

- ・ 大阪大学医学部非常勤講師 (医療経済学)
- ・ 呉大学看護学部非常勤講師 (医療経済学)
- ・ 大阪市立大学大学院医科学研究科非常勤講師 (医療経済学)
- ・ 岐阜大学大学院医学研究科非常勤講師 (医療経済学)

森兼啓太

- ・ 国立看護大学校非常勤講師 (感染管理学)
- ・ 神奈川県立保健福祉大学非常勤講師 (感染管理学)
- ・ 日本赤十字看護大学非常勤講師 (感染管理学)
- ・ 北海道医療大学非常勤講師 (感染管理学)
- ・ 滋賀県立大学非常勤講師 (感染管理学)
- ・ 東京医療保健大学非常勤講師 (感染制御学)

松井珠乃

- ・ 東京大学大学院医学系研究科非常勤講師 (公衆衛生学)

多屋馨子

- ・ 東京慈恵会医科大学医学部非常勤講師 (微生物学講座第一 (臨床基礎医学ウイルスと感染 (ワクチンの基礎と応用))
- ・ お茶の水女子大非常勤講師 (化学・生物総合管理の再教育講座)

藤本嗣人

- ・ 東京大学大学院発達医学教室客員研究員 (アデノウイルスの分子疫学)

木村博一

- ・ 群馬大学医学部医学科講師 (ウイルス学・感染症学)

VII. 検査実施状況

	行政	研究	合計
ウイルス分離同定	63	573	636
核酸・抗原検出	0	920	920
血清反応	0	14	14
合計	63	1507	1570

[藤本嗣人、佐藤弘、荒木和子、多屋馨子]

Ⅷ. 研究員・研究生

氏名	身分	期間	出身
中村明子	客員研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	東京大学
金沢 保	客員研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	産業医科大学
押谷 仁	客員研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	東北大学大学院
西尾 治	客員研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	元職員
John M. kobayashi	客員研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	ワシントン保健局
木村幹男	客員研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	財団法人結核研究所
浜本いつき	流動研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	ヒューマンサイエンス新興財団
山岸拓也 (FETP)	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	大和市立病院
富岡鉄平 (FETP)	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	自衛隊中央即応集団司令部
土橋酉紀 (FETP)	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	岡山大学大学院
高橋英明 (FETP)	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	実地疫学専門家養成コース
五十嵐正巳	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	自衛隊舞鶴病院
高橋亮太	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	厚生労働省結核感染症課
池田雄史	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	(独)国立病院機構南京都病院
田中好太郎	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	日本赤十字社医療センター
堀 成美	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	都立駒込病院
吉田眞紀子	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	市立堺病院
杉下由行	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	東京都福祉保健局
土田賢一	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	横浜市港南福祉保健センター
徳田浩一	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	鹿児島大学医学部
山田文也	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	埼玉県衛生研究所
中瀬克巳	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	岡山市保健所
加來浩器	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	東北大学大学院
田中 毅	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	福岡保健所
浦島充佳	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	東京慈恵会医科大学
松永泰子	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	元職員
藤井達也	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	三宿病院・自衛隊中央病院
堀 佳美	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	医療法人済恵会須藤病院
島田 靖	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	日本医科大学救急医学講座
吉田英樹	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	大阪市保健所
森 伸生	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	関西医科大学小児科
齋藤章暢	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	埼玉県衛生研究所
三村敬司	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	陸上自衛隊衛生学校
山口 亮	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	北海道庁石狩保健福祉事務所

感染症情報センター

森山和郎	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	大阪府健康づくり感染症課
鈴木葉子	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	東京女子医科大学東医療センター
松舘宏樹	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	岩手県環境保健研究センター
森下高行	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	愛知県食品衛生検査所
松崎充宏	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	(社)日本海事検定協会
宗村徹也	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	横浜市食肉衛生検査所
飯田真里子	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	東京医科歯科大学大学院
太田正樹	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	財団法人結核研究所
神垣太郎	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	東北大学大学院
小林幹子	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	東北大学先進医工学研究機構
登坂直規	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	東京医科歯科大学
阿保 満	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	東京都福祉保健局健康安全室
鷺見 宏	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	兵庫県西播磨県民局
鈴木智之	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	群馬県衛生環境研究所
愛木智香子	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	(財)日本冷凍食品検査協会
宮城裕人	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	聖マリア病院
井内田科子	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	内閣府大臣官房国際課
Nguyen Minh	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.9	東京大学、 ^{ベトナム} 国立衛生疫学研究所
村上裕子	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	獣医師
岡崎 薫	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	東京都立八王子小児病院
赤尾寿美子	協力研究員	H20. 4. 1- H20. 11.20	マニハ食品(株)
神谷 元	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	エモリー大学大学院
小長谷 昌未	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	トラスト(株)
橋本 和宏	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	トラスト(株)
榎本美貴	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	兵庫県健康環境科学研究センター
有田知子	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	(独)日本スポーツ振興センター
吉田昌功	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	防衛省
牧 隆之	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	防衛省
川端利信	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	防衛省
柏原 茂	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	防衛省
小田興志郎	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	防衛省
成松浩志	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	大分県衛生環境研究センター
高木雅之	協力研究員	H20. 4. 1- H21. 3.31	防衛省
Bi Zhenwang	協力研究員	H20. 9. 29- H21. 10.10	山東省疾病予防控制中心伝染病防制所
Wu Xuehong	協力研究員	H20. 9. 18- H21. 8.31	広州市疾病予防コントロールセンター
井上浩利	研究生	H20. 7. 14- H20. 7.26 H20. 9. 1- H20. 9.13	福岡大学医学部

発表業績一覧

I. 誌上発表

1. 欧文発表

- 1) Kamiya, H, Okabe, N. Leadership in Immunization: The relevance to Japan of the U.S.A. experience of the Centers for Disease Control and Prevention (CDC) and the Advisory Committee on Immunization Practices (ACIP). *Vaccine*. 27 (11) : 1724-1728. 2009.
- 2) Okabe, N. Combined MR vaccine introduced in Japan. *Jap Med Assoc J*. 51(3): 191-196. 2008.
- 3) Ogata, T., Yamazaki, Y., Okabe, N., Nakamura, Y., Tashiro, M., Nagata, N., Itamura, S., Yasui, Y., Nakashima, K., Doi, M., Izumi, Y., Fujieda, T., Yamato, S. and Kawada, Y.: Human H5N2 avian influenza infection in Japan and the factors associated with high H5N2-neutralizing antibody titer. *Journal of Epidemiology*. 18(4): 160-166. 2008.
- 4) Kobayashi, S., Murayama, S., Takanashi, S., Takahashi, K., Miyatsuka, S., Fujita, T., Ichinohe, S., Koike, Y., Kohagizawa, T., Mori, H., Deguchi, Y., Higuchi, K., Wakasugi, H., Sato, T., Wada, Y., Nagata, M., Okabe, N., and Tatsuzawa, O. Clinical features and prognosis of 23 patients with CGD followed 21 years by a single hospital in Japan. *European Journal of Pediatrics*. 167:1389-1394. 2008.
- 5) Nagano T, Morishima T, Kimura H, Yokota S, Yamashita N, Ishiwata T, Kurihara M, Miyazaki C and Okabe N. Acute encephalopathy in Japan
- 6) Maeda, H., Ohkusa, Y., Aihara, K. Effect of facility in the SEIR epidemic model. *Artif Life Robotics*, 12 : 172-175, 2008
- 7) Ohkusa, Y., Maeda, H., Aihara K. Assessing the potential Effectiveness of Shutting Down Transportation Systems to Contain Pandemic Influenza in a Megacity Area. *Mathematical engineering technical reports*, 1-13, 2008.
- 8) Ohkusa, Y., Sugawara, T. Simulation Model of Pandemic Flu in the Whole of Japan, *Japanese Journal of Infectious Diseases*. 62(2): 98-106. 2009.
- 9) Mondal, Md. N. I., Takaku, H., Ohkusa, Y., Sugawara, T., Okabe, N. HIV/AIDS Acquisition and Transmission in Bangladesh: Turning to the Concentrated Epidemic. *Japanese Journal of Infectious Diseases*. 62(2) : 111-119. 2009.
- 10) Yoshida, M., Matsui, T., Ohkusa, Y., Kobayashi, J., Ohyama, T., Sugawara, T., Yasui, Y., Tachibana, T., Okabe, N. Seasonal influenza surveillance using prescription data for anti-influenza medications manuscript. *Japanese Journal of Infectious Diseases*. 62(2) : 233-235. 2009.
- 11) Matsui, T., Nakashima, K., Ohyama, T., Kobayashi, J., Arima, Y., Kishimoto, T., Ogawa, M., Cai, Y., Shiga, S., Ando, S., Kurane, I., Tabara, K., Itagaki, A., Nitta, N., Fukushi, K., Matsumoto, A., Okabe, N. An outbreak of psittacosis in a bird park in Japan. *Epidemiology and Infection*. 136 : 492-495. 2008.
- 12) Collier, N., Kawazoe, A., Doan, S., Shigematsu, M., Taniguchi, K., Jin, L., McCrae, J., Chanlekha, H., Dien, D., Hung, Q., Nam, V.C., Takeuchi, K., Kawtrakul, A. Detecting Web rumours with a multilingual ontology supported text classification system. *Advances in Disease Surveillance*. 4 : 242. 2007.
- 13) Collier, N., Kawazoe, A., Doan, S., Shigematsu, M., Taniguchi, K., Jin, L., McCrae, J., Dien, D., Ngo, Q.H., Takeuchi K., Kawtrakul, A. Ontology-driven influenza surveillance from Web rumours. Proceedings of the 2007 Options for the Control of Influenza VI, ed. Katz JM. *International Medical Press*. 225-226. 2008.
- 14) Kawazoe, A., Chanlekha, H., Shigematsu, M., Collier, N. Structuring an event ontology for disease outbreak detection. *BMC Bioinformatics*. 9 (Suppl 3) : S8. 2008.
- 15) Yasuda, H., Yoshizawa, N., Kimura, M., Shigematsu, M., Kawachi, S., Oshima, M., Yamamoto, K., Suzuki, K. Preparedness for the spread of influenza: prohibition of traffic, school closure, and vaccination of children in the commuter towns of Tokyo. *Journal of Urban Health*. 85 (4) : 619-635. 2008.
- 16) Collier, N., Doan, S., Kawazoe, A., Goodwin, R.M.,

- Conway, M., Tatenno, Y., Ngo Q.H., Dien, D., Kawtrakul, A., Takeuchi, K., Shigematsu, M., Taniguchi, K. BioCaster: detecting public health rumors with a Web-based text mining system. *Bioinformatics*. 24 (24) : 2940-2941. 2008.
- 17) Yamamoto, A., Iwahori, J., Vuddhakul, V., Charernjiratragul, W., Vose, D., Osaka, K., Shigematsu, M., Toyofuku, H., Yamamoto, S., Nishibuchi, M., Kasuga, F. Quantitative modeling for risk assessment of *Vibrio parahaemolyticus* in bloody clams in southern Thailand. *International Journal of Food Microbiology*. 124 (1) : 70-78. 2008.
- 18) Mori, N., Ohkusa, Y., Ohyama, T., Tanaka-Taya, K., Taniguchi, K., Kobayashi, J.M., Doy, M., Okabe, N. Estimation of measles vaccine coverage needed to prevent transmission in schools. *Pediatrics International*. 50(4) : 464-468. 2008.
- 19) Sunagawa, T. Global Alert and Response Against Emerging and Reemerging Infectious Diseases - an Overview-. *Global Environmental Research*. 12: 63-67. 2008.
- 20) Sunagawa, T., Shimada, T., Ueno-Yamamoto, K., Yamashita, K., Tanaka-Taya, K., Tada, Y., Yasui, Y., Matsui, T., Taniguchi, K., Kobayashi, J., Okabe, N. Progress Toward Measles Elimination – Japan, 1999-2008. *MMWR* 57 : 1049-1052. 2008.
- 21) Tada, Y., Okabe, N., Kimura, M. Traveler's risk of malaria by destination country: A study from Japan. *Travel Medicine and Infectious Disease* 6: 362-372. 2008.
- 22) Saitoh, T., Iyoda, S., Yamamoto, S., Lu, Y., Shimuta, K., Ohnishi, M., Terajima, J., Watanabe, H. Transcription of enterohemolysin gene is positively regulated by GrlA, a global regulator encoded within the locus of enterocyte effacement in enterohemorrhagic *Escherichia coli*. *Journal of Bacteriology*. 190(14): 4822-4830. 2008.
- 23) Ohkusa, Y., Ohyama, T., Tanaka-Taya, K., Taniguchi, K., Kobayashi, J. M., Doy, M., Okabe, N. Estimation of measles vaccine coverage needed to prevent transmission in schools. *Pediatrics International*. 50(4): 464-468. 2008.
- 24) Ohji, G., Satoh, H., Satoh, H., Mizutani, K., Iwata, K., Tanaka-Taya, K. Congenital measles caused by transplacental infection. *Pediatric Infectious Diseases Journal*. 28(2): 166-167. 2009.
- 25) Sugawara, T., Ohsuka, Y., Tanaka-Taya, K., Yasui, Y., Wada, N., Sakano, M., Koshida, R., Fujii, F., Shibata, S., Hashimoto, G., Utsumi, H., Sumitomo, M., Ishihara, M., Kondo, H., Sato, H., Ueno, K., Araki, K., Okabe, N. Diarrhea as a minor adverse effect due to oral polio vaccine. *Japanese Journal of Infectious Diseases*. 62(1): 51-53. 2009.
- 26) Arai, S., Bennett, S. N., Sumibcay, L., Cook, J. A., Song, J. -W., Hope, A., Parmenter, C., Nerurkar, V. R., Yates, T. L., Yanagihara, R. Phylogenetically Distinct Hantaviruses in the Masked Shrew (*Sorex cinereus*) and Dusky Shrew (*Sorex monticolus*) in the United States. *American Journal of Tropical Medicine and Hygiene*. 78: 348-351. 2008.
- 27) Arai, S., Matsunaga, Y., Takasaki, T., Tanaka-Taya, K., Taniguchi, K., Okabe, N., Kurane, I. and VDSJ. Japanese Encephalitis: surveillance and elimination effort in Japan from 1982 to 2004. *Japanese Journal of Infectious Diseases*. 61: 333-338. 2008.
- 28) Oka, H., Tabara, A., Fujisawa, K., Jinnai, M., Nakajima, R., Arai, S., Ishihara, C and Tsuji, M. *Babesia rodhaini*: The protective effect of pyruvate kinase deficiency in mice. *Experimental Parasitology*. 120: 290-294. 2008.
- 29) Arai, S., Ohdachi, D. S., Asakawa, M., Kang, H. J., Mocz, G., Arikawa, J., Okabe, N. and Yanagihara, R. Molecular phylogeny of a newfound hantavirus in the Japanese shrew mole (*Urotrichus talpoides*). *Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America*. 105: 16296-16301. 2008.
- 30) Fujimoto, T., Yoshida, S., Munemura, T., Taniguchi, K., Shinohara, M., Nishio, O., Chikahira, M., Okabe, N. Detection and quantification of enterovirus 71 genome from cerebrospinal fluid of an encephalitis

- patient by PCR applications. *Japanese Journal of Infectious Diseases*. 61(6): 497-499. 2008.
- 31) Suzuki, S., Shibata, N., Yamane, K., Wachino, J., Ito, K., Arakawa, Y. Change in the prevalence of extended-spectrum-beta-lactamase-producing *Escherichia coli* in Japan by clonal spread. *Journal of Antimicrobial Chemotherapy*. 63(1): 72-79. 2009.
- 32) Okazaki, K., Kondo, M., Kato, M., Kakinuma, R., Nishida, A., Noda, M., Taniguchi, K., Kimura, H. Serum cytokine and chemokine profiles in neonates with meconium aspiration syndrome. *Pediatrics*. 121(4): e748-e753. 2008.
- 33) Taira, K., Nakamura, M., Okano, S., Nidaira, M., Kudaka, J., Itokazu, K., Taira, T., Itokazu, T., Chinen, M., Sunagawa, T., Kimura, H. Phylogenetic analysis of nucleoprotein (N) gene of measles viruses prevalent in Okinawa, Japan during 2003-2007. *Japanese Journal of Infectious Diseases*. 61(3): 248-250. 2008.
- 34) Yamaguchi, T., Kimura, H., Kurabayashi, M., Kozawa, K., Kato, M. Interferon- γ enhances human eosinophil effector functions induced by granulocyte-macrophage colony-stimulating factor or interleukin-5. *Immunology Letter*. 118(1): 88-95. 2008.
- 35) Mizuta, K., Abiko, C., Aoki, Y., Suto, A., Hoshina, H., Itagaki, T., Katsushima, N., Matsuzaki, Y., Hongo, S., Noda, M., Kimura, H., Ootani, K. Analysis on monthly isolation of respiratory viruses from children by cell culture using a modified microplate method: a two-year study from 2004 to 2005 in Yamagata, Japan. *Japanese Journal of Infectious Diseases*. 61(3): 196-201. 2008.
- 36) Nakazato, Y., Tanaka, R., Seki, E., Iijima, M., Kojima, M., Yoshizumi, M., Kato, M., Kimura, H., Kozawa, K., Goya, T. Differential diagnosis of primary versus metastatic pulmonary adenocarcinomas using gene mutation analyses: A case report. *Journal of Thoracic Oncology*. 3(8): 931-984. 2008.
- 37) Yoshizumi, M., Nakamura, T., Kato, M., Ishioka, T., Kozawa, K., Wakamatsu, T., Kimura, H. Release of cytokines/chemokines and cell death in UVB-irradiated human keratinocytes, HaCaT. *Cell Biology International*. 32(11): 1405-1411. 2008.
- 38) Okazaki, K., Kondo, M., Kato, M., Nishida, A., Shigeru, N., Takahashi, H., Noda, M., Kimura, H. The temporal alterations of sera cytokines/chemokines concentrations with sepsis due to group B streptococcus infection in a neonate. *Japanese Journal of Infectious Diseases*. 61(5): 382-385. 2008.
- 39) Ogane, T., Hirata, A., Funatogawa, K., Kobayashi, K., Sato, T., Kimura, H. Food Poisoning Outbreak Caused by Norovirus GII/4 in School Lunch, Tochigi Prefecture, Japan. *Japanese Journal of Infectious Diseases*. 61(5): 423-424. 2008.
- 40) Boonmar, S., Markvichitr, K., Chaunchom, S., Chanda, C., Bangtrakulnonth, A., Pomrunangwong, S., Yamamoto, S., Suzuki, D., Kozawa, K., Kimura, H., Morita, Y. Prevalence of Salmonella in Slaughtered Pigs and Buffaloes in Vientiane, Lao People's Democratic Republic. *Journal of Veterinary Medical Sciences*. 70(12): 1345-1348. 2008.
- 41) Mukai, H., Hokari, Y., Seki, T., Takao, T., Kubota, M., Matsuo, Y., Tsukagoshi, H., Kato, M., Kimura, H., Shimonishi, Y., Kiso, Y., Nishi, Y., Wakamatsu, K., Munekata, E. Discovery of mitocryptide-1, a neutrophil-activating cryptide from healthy porcine heart. *Journal of Biological Chemistry*. 283 (45): 30596-30605. 2008.
- 42) Saitoh, M., Kimura, H., Kozawa, K., Shoji, A. Molecular evolution of HA1 in influenza A (H3N2) viruses isolated in Gunma, Japan, from 1989 to 2006. *Intervirology*. 51(6): 377-384. 2009.
- 43) Shinkawa, N., Noda, M., Yoshizumi, S., Tokutake, Y., Shiraishi, T., Arita-Nishida, T., Nishio, O., Oka, T., Hansman, G S., Takeda, N., Kimura, H. Molecular epidemiology of noroviruses detected in food handler-associated outbreaks of gastroenteritis in Japan. *Intervirology*. 51(6): 422-426. 2009.
- 44) Sakano, C., Morita, Y., Shiono, M., Yokota, Y., Mokudai, T., Sato-Motoi, Y., Noda, A., Nobusawa, T., Sakaniwa, H., Nagai, A., Kabeya, H., Maruyama, S., Yamamoto, S., Sato, H., Kimura, H. Prevalence of hepatitis E virus (HEV) infection in wild boars (*Sus*

- scrofa leucomystax*) and pigs in Gunma Prefecture, Japan. *Journal of Veterinary Medical Science*. 71(1): 21-25. 2009.
- 45) Nakagawa-Okamoto, R., Arita-Nishida, T., Toda, S., Kato, H., Iwata, H., Akiyama, M., Nishio, O., Kimura, H., Noda, M., Takeda, N., Oka, T. Detection of Multiple Sapovirus Genotypes and Genogroups in Oyster-Associated Outbreaks. *Japanese Journal of Infectious Diseases*. 62(1): 63-66. 2009.
- 46) Mizuta, K., Matsuzaki, Y., Hongo, S., Ohmi, A., Okamoto, M., Nishimura, H., Itagaki, T., Katsushima, N., Oshitani, H., Suzuki, A., Furuse, Y., Noda, M., Kimura, H., Ahiko, T. Stability of seven hexon hypervariable region sequences of adenovirus types 1-6 isolated in Yamagata, Japan between 1988 and 2007. *Virus Research*. 140(1-2): 32-39. 2009.
- 47) Zaraket, H., Saito, R., Tanabe, N., Taniguchi, K., Suzuki, H. Association of early annual peak influenza activity with El Niño southern oscillation in Japan. *Influenza and Other Respiratory Viruses*, 2(4) : 127-130, 2008
- 48) Taniguchi, K., Yoshida, M., Sunagawa, T., Tada, Y., Okabe, N. Imported infectious diseases and surveillance in Japan. *Travel Medicine and Infectious Disease*, 6 : 349-354, 2008.
- 2. 和文発表**
- 1) 岡部信彦：天然痘。特集：新興再興感染症。最新医学 63:650-660. 2008.
- 2) 岡部信彦：定期予防接種の改正（平成20年4月より）。小児臨床 61(4):889-894. 2008.
- 3) 岡部信彦：感染症対象疾患分類の見直し。化学療法の領域 24(4)：541-546. 2008.
- 4) 岡部信彦：わが国における麻疹排除へのスタート。小児科 49(4)481-487. 2008.
- 5) 岡部信彦：出血性大腸菌感染症およびその他の細菌性腸管感染症。特集：小児科領域の院内感染。小児科 49(5)：643-648. 2008.
- 6) 岡部信彦：一類感染症。特集：改正感染症法の基礎知識。臨床と微生物 35(3)：217-222. 2008.
- 7) 岡部信彦：わが国における予防接種対策。一最近の麻疹流行の問題点と対策の変化-。感染・炎症・免疫 38(2)：172-174. 2008.
- 8) 岡部信彦：ウイルスによる新興感染症とその対策。ウイルスハンドブック。編集・河野 茂。日本医学館。pp.10-13. 2008. 6.
- 9) 岡部信彦：新型インフルエンザの動向。保育と保健 14(2)：114-118. 2008.
- 10) 岡部信彦：新型インフルエンザのパンデミック対策。-鳥インフルエンザから新型インフルエンザ発生への器具と準備の必要性-。警察学論集 61(8)：125-138. 2008.
- 11) 岡部信彦。H5N1 鳥インフルエンザの現状について。小児感染免疫 20(3)：323-329. 2008.
- 12) 岡部信彦、山本久美、佐藤弘、島田智恵、安井良則、山下和予、松井珠乃、砂川富正、中島一敏、木村博一、多田有希、谷口清州、多屋馨子。予防接種法および感染症法改正後の麻疹およびその対策の状況。小児科臨床 61(11)：2149-2156. 2008.
- 13) 岡部信彦。かぜとインフルエンザ。少年写真新聞社 2008. 11.
- 14) 高山直秀、崎山 弘、岡部信彦、橋本 哲。改正結核予防法施行後の全国BCGワクチン累積接種率 - 2007年調査 -。日本医事新報 4386:75-78. 2008.
- 15) 加来浩器、岡部信彦：生物剤。NBCテロ対処ハンドブック。pp.33-44 編・CBRNE テロ対処研究会 診断と治療社 2008. 5.
- 16) 谷口清州：これからのインフルエンザ対策—プラス新型のデュアルモード時代。感染対策 ICT ジャーナル, 3(4) : 351-356, 2008.
- 17) 谷口清州：新型インフルエンザ概論。Monthly 保健センター 11 : 3, 2008.
- 18) 谷口清州：. 新型インフルエンザにおける情報の収集と解析の重要性。メビオ, 25(11) : : 76-82, 2008.
- 19) 谷口清州. : 新型インフルエンザの最新情報と対策. . 老年医学, 11 : 1343-1346, 2008.
- 20) 谷口清州: 新型インフルエンザパンデミック時の対応—国家レベル. 成人病と生活習慣病, 38(11) : 1274-1279, 2008.

- 21) 谷口清州:世界におけるインフルエンザ対策. からだの科学, 259 : 139-142, 2008.
- 22) 谷口清州:鳥インフルエンザと新型インフルエンザ. Neuroinfection, 12(1) : 68-73, 2007.
- 23) 谷口清州:新型インフルエンザ. 小児科, 49(5) : 755-759, 2008.
- 24) 谷口清州:鳥インフルエンザ. 東京都感染症マニュアル. 東京都福祉保健局. 2009年3月.
- 25) 谷口清州:パンデミック時対応. 成人病と生活習慣病, 38(11) : 1274-1278, 2009.
- 26) 谷口清州:国際的な感染症対策の枠組み. JVM, 62(6) : 448-452, 2009.
- 27) 神谷元、神谷齊:米国のワクチン行政に学ぶ. 日本臨床, 66(10) : 1858-1864, 2008.
- 28) 神谷元、島田智恵、岡部信彦:ワクチンにて予防可能な細菌・ウイルス性感染症の我が国での発生状況. 日本医師会雑誌, 138(4) : 654-658, 2009.
- 29) 齋藤昭彦、中野貴司、神谷元:Hib ワクチンの普及、そしてVPD感染をなくすために(座談会). 週刊医学界新聞, 2009. 6.
- 30) 森兼啓太:院内感染アウトブレイク対応. 小児科, 49(5) : 545-550, 2008.
- 31) 森兼啓太:新・隔離予防策の概念と改訂経緯・その背景. 感染対策 ICT ジャーナル, 3(2) : 122-125, 2008.
- 32) 森兼啓太:感染症・感染対策 Up to date. ナース専科, 28(7) : 8-13, 2008.
- 33) 森兼啓太:SSI のリスク因子と対策の最新コンセンサス. 消化器外科 NURSING, 13(7) : 667-676, 2008.
- 34) 森兼啓太:新型インフルエンザに関する最新の情報. 複十字, 322 : 27, 2008.
- 35) 森兼啓太:世界の H5N1 感染の状況(トリおよびヒト). 病原微生物検出情報 (IASR), 29(7) : 183-185, 2008.
- 36) 森兼啓太:SHEA 2008 参加報告. 感染制御, 4(3) : 221-224, 2008.
- 37) 森兼啓太:新型インフルエンザ対策におけるワクチン戦略. INFECTION CONTROL, 17(9) : 902-905, 2008.
- 38) 森兼啓太:耐性菌対策のいまー監視培養も含めて
一. INFECTION CONTROL, 17(10) : 1008-1009, 2008.
- 39) 森兼啓太:新型インフルエンザ対策ー国策としてのグランドデザイン. 感染対策 ICT ジャーナル, 3(4) : 390-395, 2008.
- 40) 森兼啓太:SHEA での注目すべき情報. INFECTION CONTROL, 17(12) : 1204-1206, 2008.
- 41) 森兼啓太:欧州感染対策事情ー透析関連学会とイタリアの透析施設の視察よりー. 感染制御, 4(5) : 413-418, 2008.
- 42) 森兼啓太:手術部位感染防止のための周術期管理の最新情報. INFECTION CONTROL, 18(1) : 30-34, 2009.
- 43) 森兼啓太: JANIS データの活用. INFECTION CONTROL, 18(2) : 58-62, 2009.
- 44) 森兼啓太:事業者・職場における新型インフルエンザ対策ガイドラインのポイント. 先見労務管理, 47(1365) : 34-38, 2009.
- 45) 森兼啓太:最近の CDC ガイドラインのポイントと変更点. Medical Technology, 37(4) : 332-335, 2009.
- 46) 森兼啓太:アメリカの中小規模医療施設における感染制御. 感染制御, 5(1) : 18-21, 2009.
- 47) 針原康、小西敏郎、森兼啓太、佐和章弘、塚本泰司、高橋聡、久田友治、菅原えりさ:SSI サーベイランスの全国集計結果および第 10-13 回 SSI サーベイランス研究会報告. 日本環境感染学会誌, 24(3) : 202-205, 2009.
- 48) 森兼啓太:III 術後肺炎サーベイランス、IV おさえておきたいサーベイランスのシステム:NNIS、NHSN. pp176-178、195-198 崎浜智子・森兼啓太(編集) 感染対策のためのサーベイランス協力サポートブック. メディカ出版, 大阪 2008.
- 49) 森兼啓太:C 各論 一口メモ 標準予防策. p334. 和田攻(監修). 産業保健ハンドブック. VI 職場の感染症対策. 財団法人産業医学振興財団, 東京, 2008.
- 50) 森兼啓太:第 7 章 消毒法とその用途. pp113-126, 遠藤明ら(編集). 管理理容師・管理美容師資格認定講習会テキスト. 財団法人理容師美容師試験研修センター, 東京, 2009.
- 51) 森兼啓太:Q19 SSI 予防. pp. 631-636, 岩田健

- 太郎 (編集). 感染症診療 Q&A. 総合医学社, 東京, 2009.
- 52) 大日康史, 山口亮, 杉浦弘明, 菅原民枝, 吉田真紀子, 島田智恵, 堀成美, 杉下由行, 安井良則, 砂川富正, 松井珠乃, 谷口清州, 多田有希, 多屋馨子, 今村友明, 岡部信彦: 北海道洞爺湖サミットにおける症候群サーベイランスの実施. 感染症学雑誌, 83(3): 236-244, 2009.
- 53) 菅原民枝, 杉浦正和, 大日康史, 谷口清州, 岡部信彦: 新型インフルエンザ流行時における一般住民の外出自粛に関する意識の検討. 感染症学雑誌, 82(5): 427-433, 2008.
- 54) 菅原民枝, 大日康史, 杉浦弘明, 谷口清州, 岡部信彦: 感染症流行の早期探知のための電子カルテを用いた自動的な症候群サーベイランスの構築. 医療情報学, 28(1): 13-20, 2008.
- 55) 大日康史, 菅原民枝: 全国版新型インフルエンザ流行シミュレーション. インフルエンザ, 1.9(3): 66(240)~71(245), 2008.
- 56) 大日康史, 菅原民枝: 新型インフルエンザパンデミックの経済的損失のインパクトの予想と対策. 臨牀と研究, 85(12): 41(1717)-45(1721), 2008.
- 57) 大日康史, 菅原民枝: 新型インフルエンザのシミュレーションと被害予測. 日本医師会雑誌, 137(10): 2086-2090, 2009.
- 58) 大日康史, 菅原民枝: 応用研究「新型インフルエンザ拡大伝播モデルシミュレーション」ウイルス感染の時間的, 空間的広がりを予測!. パーソントリップ調査ガイドブッカー, 東京都市圏交通計画協議会, 9: 2008.
- 59) 大日康史, 菅原民枝, 谷口清州, 岡部信彦: 2006/07 シーズンにおける超過死亡の評価. 病原微生物検出情報, 29(1): 105-107, 2008.
- 60) 大日康史, 菅原民枝: 5歳児健診における軽度の発達障害児の発見についての費用対効果分析. 小枝達也(編者) 5歳児健診 発達障害の診療・指導エッセンス. 診断と治療社, 46~48, 2008.
- 61) 永井美之, 押谷仁, 田代真人, 伊藤善典, 工藤宏一郎, 梅田珠実, 河岡義裕, 大日康史, 飯沼雅明: 狼は来るのか? その対策は - 新型インフルエンザ徹底討論. 日本医師会雑誌, 137(10): 2023-2044, 2009.
- 62) 大日康史: Person trip date に基づいた感染拡大シミュレーション. 肥満と糖尿病, 2812, 2009.
- 63) 重松美加, 岡部信彦: 感染症サーベイランスと地理学情報. 保健医療科学, 57(2): 3-7, 2008.
- 64) 吉川肇子, 重松美加: リスク・コミュニケーションとは——その歴史と現代における課題. 医事新報, 4397: 78-83, 2008.
- 65) 重松美加 (翻訳): 世界保健機関「感染性物質の輸送規則に関するガイダンス 2007-2008 版」日本語翻訳. 2008.
- 66) 砂川富正: 偽性アウトブレイクに関する注意. Infection Control, 17(3): 284-286, 2008.
- 67) 砂川富正: 世界および国内の鳥インフルエンザの状況—H5N1を中心に—. 食品衛生研究, 58(3): 9-15, 2008.
- 68) 砂川富正. しのび寄る蚊媒介感染症への対策は十分か—チクングンニャを例に—. 61(3): 491-494, 2008.
- 69) 徳田浩一, 砂川富正, 岡部信彦: 百日咳の疫学—わが国の最近の状況を中心に—. 化学療法領域, 24(5): 697-705, 2008.
- 70) 倉本秋, 有瀬和美, 瀬尾宏美, 脇口宏, 徳田浩一, 吉田真紀子, 砂川富正: 百日咳の復興. J I M, 18(7): 572-577, 2008.
- 71) 西藤成雄, 砂川富正: ML インフルエンザ流行前線情報データベースの紹介. 日本医師会雑誌, 136(12): 2439-2443, 2008.
- 72) 五十嵐正巳, 砂川富正: チャートで考える腸管出血性大腸菌 0157 の対応. INFECTION CONTROL, 17(3): 248-253, 2008.
- 73) 多田有希: 事業所で問題となる国内外の主な感染症の臨床・予防対処法・管理 (各論 麻疹). 産業保健ハンドブック VI 職場の感染症対策—予防管理・発生時対策・臨床・補償のすべて (和田 攻 監修). 2008
- 74) 安井良則: 2008年の麻疹の発生状況. こどもの感染症の診かた 11巻 8-10. (2008.5)
- 75) 島田智恵: 冬に流行するウイルス感染症. チャイルドヘルス 11(11): 754-758, 2008.

- 76) 国立感染症研究所、厚生労働省結核感染症課：病原微生物検出情報 月報 28 巻 4 号-29 巻 3 号. 2007-2009.
- 77) 予防医学事業中央会「ヒト由来病原体の検出数（統計のページ）」予防医学ジャーナル. Nos. 436-447. 2008- 2009.
- 78) 加藤達夫, 岡田賢司, 庵原俊昭, 宇加江進, 古賀伸子, 住友眞佐美, 多屋馨子, 馬場宏一, 三田村敬子, 日本小児保健協会予防接種・感染症委員会：感染・予防接種レター いよいよ始まった Hib ワクチン. 小児保健研究 68(2)： 298-300. 2009. 03
- 79) 多屋馨子：2012 年までに麻疹(はしか)をゼロに！ 地域、学校における麻疹対策について. 小児保健研究. 68(2)： 212-218. (2009. 03)
- 80) 岡部信彦, 山本久美[上野], 多屋馨子：保育と保健最新情報 麻疹(はしか)・風疹ワクチンの接種状況. 保育と保健 15(1)： 122-125. (2009. 01)
- 81) 加藤達夫, 岡田賢司, 庵原俊昭, 宇加江進, 古賀伸子, 住友眞佐美, 多屋馨子, 馬場宏一, 三田村敬子, 日本小児保健協会予防接種・感染症委員会：感染症・予防接種レター ムンプス最近の話題. 小児保健研究. 68(1)： 125-126. (2009. 01)
- 82) 多屋馨子：わかりやすいワクチンの話 母親でもある小児科医からお母さんへ. 外来小児科. 11(4)： 434-435. 2008.
- 83) 多屋馨子：命定めめの病「はしか」近年の麻疹の流行とその対策. Biophilica. 4(4)： 15-20. 2008.
- 84) 加藤達夫, 岡田賢司, 庵原俊昭, 宇加江進, 古賀伸子, 住友眞佐美, 多屋馨子, 馬場宏一, 三田村敬子, 日本小児保健協会予防接種・感染症委員会：感染症・予防接種レター 増加している成人百日咳. 小児保健研究. 67(6)： 896-898. 2008.
- 85) 多屋馨子：「麻疹に関する特定感染症予防指針」の告示とその紹介. 臨床と微生物. 35(6)： 75-79. 2008.
- 86) 多屋馨子：【変貌する感染症 人類の備えは十分か?】麻疹. 総合臨床. 57(11)： 2650-2655. 2008.
- 87) 多屋馨子：「予防接種ーここがポイントー」国立感染症研究所感染症情報センター予防接種室に寄せられた質問より. 小児科臨床. 61(11)： 2137-2148. 2008.
- 88) 多屋馨子：【小児ウイルス感染症の現状】麻疹. 化学療法の領域. 24(10)： 1440-1451. 2008.
- 89) 三田村敬子, 加藤達夫, 岡田賢司, 庵原俊昭, 宇加江進, 古賀伸子, 住友眞佐美, 多屋馨子, 馬場宏一, 日本小児保健協会予防接種・感染症委員会：感染症・予防接種レター 新型インフルエンザ対策におけるワクチンの現況. 小児保健研究. 67(5)： 811-812. 2008.
- 90) 多屋馨子：ワクチン効果と感染症疫学の現状. Medical Science Digest. 34(10)： 452-455. 2008.
- 91) 加藤達夫, 岡田賢司, 庵原俊昭, 宇加江進, 古賀伸子, 住友眞佐美, 多屋馨子, 馬場宏一, 三田村敬子, 日本小児保健協会予防接種・感染小委員会：感染症・予防接種レター MR ワクチン 2 期接種の安全性・効果・接種率. 小児保健研究. 67(4)： 670-672. 2008.
- 92) 多屋馨子：小児感染症の治療 適正な薬剤の選択 麻疹・風疹の予防. カレントセラピー. 26(8)： 707-711. 2008.
- 93) 多屋馨子：【小児科領域の院内感染】予防接種と院内感染. 小児科. 49(5)： 617-624. 2008.
- 94) 多屋馨子：【変貌する感染症】ワクチンの種類と接種時期. JIM: Journal of Integrated Medicine. 18(7)： 550-556. 2008.
- 95) 多屋馨子, 加藤達夫, 岡田賢司, 庵原俊昭, 宇加江進, 古賀伸子, 住友眞佐美, 馬場宏一, 三田村敬子, 日本小児保健協会予防接種・感染症委員会：感染症・予防接種レター 2006～2008 年の麻疹流行と、2012 年国内麻疹排除に向けた取り組み. 小児保健研究. 67(3)： 537-539. 2008.
- 96) 多屋馨子：特集「ワクチンの現状」各論 ワクチン効果と感染症疫学の現状. Medical Science Digest. 2008 年 9 月号
- 97) 多屋馨子：「トピックス」 今期のインフルエンザワクチン 予想と決定. 保育と保健ニュース No.44 2008 年 11 月
- 98) 多屋馨子：2008 年版インフルエンザ Q&A. No. 2. pp1, 5, 11. 2008.
- 99) 多屋馨子：インフルエンザワクチンの有効性と必要性. 大阪大学医学部学友会誌 (2008 年第 28

- 号)
- 100) 多屋馨子: 今、麻疹対策をどうするか? ~今年の流行から学ぶことへ. 横浜市小児科医会ニュース No. 37. 2008.
- 101) 多屋馨子: 第3期、第4期のMRワクチンの接種率、接種の必要性. 日本学校保健会会報「学校保健」275号2009年1月
- 102) 多屋馨子: 我が国の予防接種制度~新しい制度の紹介と今後の展望へ. 広島県小児科医会会報. 2009.
- 103) 多屋馨子: 「健康安全講座」. ノロウイルス感染症ー症状と保育施設での対応ー. 保育と保健ニュース No. 45. 2009年3月
- 104) 多屋馨子: 2012年までに麻疹(はしか)をゼロに!ー地域、学校における麻疹対策についてー. 小児保健研究 68(2): 2009年3月
- 105) 山本(上野)久美: 医療機関における麻疹対応ー2012年麻疹Eliminationに向けてー. 感染制御. 4(1): 65-68. 2008.
- 106) 山本(上野)久美: チャートで考える麻疹の対応. Infection Control. 1.17(3): 76(278)-80(282) 2008.
- 107) 山本(上野)久美: 【よくわかる予防接種の知識】麻疹ワクチン・風疹ワクチン(解説/特集). チャイルドヘルス. 11(3): 165-167. 2008.
- 108) 山本(上野)久美: 麻疹対策の変化とその後の疫学状況. メディカル朝日第38巻第1号、通巻第446号: 26-27. 2009.
- 109) 佐藤 弘、多屋馨子: かぜ・インフルエンザを予防する 日本におけるインフルエンザ対策. からの科学. 259号: 134-138. 2008.
- 110) 佐藤 弘、多屋馨子: 周産期臨床検査のポイント 新生児編 ウイルス検査. 周産期医学. 38巻: 411-416. 2008.
- 111) 佐藤 弘、多屋馨子、岡部信彦: ワクチンで予防可能な疾患の病原診断とその読み方 麻疹. 小児科. 50巻: 3-8. 2009.
- 112) 佐藤 弘、多屋馨子: 治療における最近の新薬の位置付け〈薬効別〉~新薬の広場~ ワクチン. 医薬ジャーナル. 45巻: 123-127. 2009.
- 113) 藤本嗣人、山下和予: エコーウイルス30型、エンテロウイルス71型、コクサッキーウイルスA16型が検出された検体の種類ー1980~2008年. 病原微生物検出情報月報. 30(1): 10. 2008.
- 114) 清水英明, 石丸陽子, 藤本嗣人: 白金ー白金コロイドイムノクロマトグラフ法を使用したアデノウイルス検査キットの有用性. 感染症学雑誌. 83(1): 64-65, 2009.
- 115) 藤本嗣人: 咽頭結膜熱(プール熱)・アデノウイルス感染症. チャイルドヘルス. 11(11): 34-37, 2008.
- 116) 榎本美貴, 近平雅嗣, 藤本嗣人: アデノウイルスに対するL20B細胞(ポリオウイルス特異検出細胞)の感受性ー兵庫県. 病原微生物検出情報月報. 29(4): 101-102. 2008.
- 117) 藤本嗣人, 安井良則, 森兼啓太: アデノウイルス感染対策. 病原微生物検出情報月報. 29(4): 95-95, 2008.
- 118) 藤本嗣人, 浜本いつき, 谷口清州, 岡部信彦, 近平雅嗣: 咽頭結膜熱を引き起こしたアデノウイルス3型の分子疫学ー兵庫県. 病原微生物検出情報月報. 29(4): 100-100. 2009.
- 119) 大金映子, 船渡川圭次, 藤本嗣人, 浜本いつき, 岡部信彦: 栃木県における流行性角結膜炎患者からの5種類の細胞によるウイルス分離結果. 病原微生物検出情報月報. 29(4): 101-101. 2008.
- 120) 藤本嗣人: アデノウイルス. バイオセーフティの事典. 244 - 246. 2008.
- 121) 若井公子, 嶋田明, 竹内紗耶香, 青木由貴, 水谷修紀, 木村博一, 林泰秀: Ommen症候群の臍帯血移植後に発症した *Mycobacterium avium* complex 感染症. 日本小児血液学会雑誌. 22(2): 129-132. 2008.
- 122) 有田知子, 木村博一, 野田衛, 西尾治: パンに含まれるノロウイルスの回収法の検討. 日本感染症学会誌. 82(5): 473-475. 2008.
- 123) 水上憲一, 河合修三, 黒澤肇, 森田幸雄, 小畑敏, 加藤政彦, 小澤邦壽, 間瀬徹, 長井章, 木村博一, 宗行彪: 焼肉店を原因施設とした腸管出血性大腸菌 O157 食中毒事例. 群馬医学. 81: 51-52. 2008.
- 124) 多屋馨子: 臓器移植・免疫不全状態とウイルスの

- 動態. 総編集大関武彦、近藤直実. 小児科学第3版. Pp702-705. 医学書院. 東京. 2008. 4.
- 125) 多屋馨子:「麻疹」「医療・教育現場における麻疹対策」「こどもの感染症の診かた」シリーズ第11巻. 監修藤井良知. Pp111-117, (株) 臨床医薬研究協会. 東京. 2009. 3.
- 126) 多屋馨子: HHV-6, HHV-7 感染症『KEY WORD 感染症 第2版』編集 山口恵三、戸塚恭一. 東京. 先端医学社. 2008. 8.
- 127) 多屋馨子: 接種間隔があきすぎたときの対応. 小児科臨床ピクシス. Pp78-81. 中山書店. 五十嵐隆総編集. 東京. 2008. 12.
- 128) 多屋馨子: 海外労働者の予防接種の実際. 産業保険ハンドブックVI職場の感染症対策-予防管理・発生時対策・臨床・補償のすべて-. Pp201-208. 財団法人産業医学振興財団. 東京. 2008. 9.
- 129) 多屋馨子: 事情場で問題となる国内外の主な感染症4. ポリオ. 産業保険ハンドブックVI職場の感染症対策-予防管理・発生時対策・臨床・補償のすべて-. Pp229-234. 財団法人産業医学振興財団. 東京. 2008. 9.
- 130) 多屋馨子、荒川宣親: 第7章公衆衛生と国際感染症; 予防接種. Pp247-251. 笹川千尋、林哲也編集. 医科細菌学. 南江堂. 東京. 2008. 7.
- 131) 多屋馨子: IV予防接種と関連する法律. 実践予防接種マニュアル. 改訂2版. 寺田喜平編著. pp229-262. 中外医学社. 東京. 2008. 11.
- 132) 多屋馨子、岡部信彦: 予防接種に関するQ&A集. 2008(平成20年). 社団法人細菌製剤協会. 東京. 2008. 8.
- 133) 多屋馨子: V. 化学療法以外の感染症治療・予防A. 予防接種(ワクチン)1. ウイルス a. 風疹、流行性耳下腺炎、麻疹、水痘『感染症専門医テキスト-第I部テキスト編』(日本感染症学会編集). 南江堂. 東京. 2009.
- 134) 野田雅博, 水田克巳, 木村博一: ウイルス検査診の実際. チャイルドヘルス. 11(11): 761-763. 2008.
- 135) 岡部信彦, 山本(上野)久美, 佐藤 弘, 島田智恵, 安井良則, 山下和予, 松井珠乃, 砂川富正, 中島一敏, 木村博一, 多田有希, 谷口清州, 多屋馨子: 予防接種法および感染症法改正後の麻疹およびその対策の状況. 小児科診療. 61(11): 2149-2156. 2008.

II. 学会発表

1. 国際学会

- 1) Taniguchi, K. : National Disease Surveillance in Japan. US-Japan Bioterrorism symposium. Tokyo, Japan, 2009.2.
- 2) Taniguchi, K. : Current situation on Pandemic Preparedness Plan in Japan. The 3rd International Workshop, Vaccinology 2008. Tokyo, Japan, 2008.10.
- 3) Taniguchi, K. : Current situation of surveillance in Japan. Taiwan CDC-NIID joint conference. Taipei., Taiwan, 2008.9.
- 4) Taniguchi, K. : Update of surveillance in Japan. GSEC US-Japan conference. Hawaii, USA, 2008.9.
- 5) Kamiya, H. : Prevention of *Streptococcus pneumoniae* Infection ~ Lessons from the United States ~ Foundation Merieux The 3rd International Workshop., Vaccinology 2008. Tokyo, Japan, 2008.10.
- 6) Morikane, K., Harihara, Y., Konishi, T. : Analysis of risk factors for surgical site infections in the Japanese Healthcare-Associated Infections Surveillance system. The 19th annual scientific meeting of the Society for Healthcare Epidemiology of America. San Diego, USA, 2009. 3.
- 7) Ohkusa, Y., Sugawara, T., Sugiura, H., Taniguchi, K., Okabe, N. : Syndromic Surveillance System for the G8 Hokkaido Toyako Summit Meeting 2008. ISDS. Raleigh, USA, 2008, 12.
- 8) Sugawara, T., Kimura, K., Ohkusa, Y., Taniguchi, K., Okabe, N. : Full Automatic Syndromic Surveillance System using Prescription in Japan. ISDS, Raleigh, USA, 2008, 12.
- 9) Shigematsu, M., Caskey, S., Gaudioso, J. A., Ando, S. : Biosecurity self-assessment tool trial run in Japan. 3rd Asia-Pacific Biosafety Association Conference. Bangkok, Thailand, 2007. 3.
- 10) Ando, S., Shigematsu, M., Shimasaki, N., Ikebe, T., Obuchi, M., Terashima, J., Sugiyama, K., Sata, T. :

- Problem and Confusion of Infectious Substance Transport in Japan. 3rd Asia-Pacific Biosafety Association Conference. Bangkok, Thailand, 2007. 3.
- 11) Collier, N., Doan, S., Kawazoe, A., Shigematsu, M., Taniguchi, K., Kawtrakul, A., Dien, D. : The Global Health Monitor: A Bio-Geographic View of World Outbreak News. 13th International Congress on Infectious Diseases. Kuala Lumpur, Malaysia, 2008. 6.
- 12) Ito, K., Shigematsu, M. : *Escherichia coli* isolates from cases of Japanese travelers with reported diarrhea. 13th International Congress on Infectious Diseases. Kuala Lumpur, Malaysia, 2008. 6.
- 13) Shigematsu, M., Ando, S., Sata, T., Sugiyama, K. : Survey on Pathogen Transport among Public Health Laboratories in Japan. 13th International Congress on Infectious Diseases. Kuala Lumpur, Malaysia, 2008. 6.
- 14) Gaudio, J. M., Shigematsu, M. : BioRAM 2.0: a Tool for Implementing a Biosecurity Risk Assessment Methodology. ABSA 51st Annual Biological Safety Conference, Reno, USA, 2008.10.
- 15) Tokuda, K. et al. : Pertussis Outbreak in a Medical School and University Hospital – Kochi, Japan, 2007. TEPHINET Global Scientific Conference, Kuala Lumpur, Malaysia, 2008. 11.
- 16) Yoshida, M. et al. : A Study of Influenza Surveillance using prescription information for anti-influenza medicines, Sakai, Osaka, Japan, 2006-7. TEPHINET Global Scientific Conference, Kuala Lumpur, Malaysia, 2008. 11.
- 17) Hori, N. et al. : Baseline survey of physicians' practices and attitudes to recommend partner HIV testing, Japan, 2007. TEPHINET Global Scientific Conference, Kuala Lumpur, Malaysia, 2008. 11.
- 18) Sumibcay, L., Arai, S., Song, J. W., Bennett, S. N., Truong, T. T., Truong, N. U., Nerurkar, V. R., Cook, J., Yanagihara, R.: Discovery of Genetically Distinct Hantaviruses Harbored by Shrews in Eurasia and North America. American Society for Microbiology. Boston, USA. June 1-5, 2008.
- 19) Yanagihara, R, Arai, S., Kang, H. J., Sumibcay, L., Hope, A. G., Cook, J., Jin-Won Song. Emerging concepts about the evolutionary origins of hantaviruses. 7th Louis Pasteur Conference on Infectious Diseases. November 11-13, 2008.
- 20) Yanagihara, R., Arai, S., Song, J. W., Bennett, S. N., Sumibcay, L., Kang, H. J., Hope, A. G., Nerurkar, V. R., Cook, J. A. : Opportunistic Observations about the Evolutionary Origins of Hantaviruses. 42nd Joint Working Conference on Viral Diseases and Satellite Meeting. US-Japan meeting. May 26 – 28, 2008. Nagasaki Japan.
- 21) Arai, S., Bennett, S. N., Sumibcay, L., Cook, J., Vivek R. Nerurkar², Yanagihara, R. : Phylogeography of Camp Ripley Virus, a Newly Identified Hantavirus Harbored by the Northern Short-tailed Shrew (*Blarina brevicauda*). XIV. International Congress of Virology. Istanbul, Turkey. August 10-15, 2008.
- 22) Arai, S., Sumibcay, L., Cook, J., Hope, A. G., and Yanagihara, R.: Lena River virus, a newfound hantavirus in *Sorex caecutiens* in Siberia, Russia. XIV. International Congress of Virology. Istanbul, Turkey. August 10-15, 2008.
- 23) Arai, S., Kang, H. J., Sumibcay, L., Bennett, S. N., Hope, A. G., Vivek R. Nerurkar, Joseph A. Cook, Yanagihara, R. : Genetic Diversity of Jemez Springs Virus, A Newfound Hantavirus Harbored by the Dusky Shrew (*Sorex monticolus*) in North America. XIV. International Congress of Virology. Istanbul, Turkey. August 10-15, 2008.
- 24) Araki, K., Tanaka-Taya, K., Okabe, N. : Shedding and genetic mutations of OPV in a healthy child, Clinical features and laboratory findings. First International Conference on Current Advances in Medical Microbiology and Immunology. Mongolia. June 12-14, 2008.
- 25) Fujimoto, T., Hamamoto, I., Taniguchi, K., Chikahira, M. Okabe, N.; Molecular epidemiology of adenovirus type 3 detected from 1994 to 2006 in Hyogo prefecture, Japan. The 7th Japan-China International Conference of Virology. Tokyo, Japan. June 1-3,

- 2008.
- 26) Watanabe-Murakami, Y., Matsuno, S., Okabe, N. : Food-Borne Viral Infectious Disease: Genetic Characterization of Norovirus from Oysters, Marine Plankton and Humans, National Institute of Infectious Diseases, Japan at 11th Western Pacific Congress on Chemotherapy and Infectious Diseases. Prize: Western Pacific Society of Chemotherapy Young Investigator Award Taipei International Convention Center, Taiwan. November 29 - December 03, 2008
- 2. 国内学会**
- 1) 谷口清州：感染症と危機管理について（講演）．第11回日本臨床救急医学会総会．東京，2008.6.
 - 2) 谷口清州：感染症だより（講演）．日本小児科学会東京地方会．東京，2008.7.
 - 3) 谷口清州：新興・再興ウイルス症の脅威（講演）．第3回動物由来感染症フォーラム．東京，2008.7.
 - 4) 谷口清州：トラベルワクチンの接種経験（講演）．第12回日本渡航医学会総会．岡山県岡山市，2008.7.
 - 5) 谷口清州：病児保育における感染対策（講演）．第18回全国病児保育研究大会．四日市市，2008.7.
 - 6) 谷口清州：新型インフルエンザの現状と対策（講演）．第10回日本災害看護学会．大分県別府市，2008.8.
 - 7) 谷口清州：国際保健規則（講演）．第8回人と動物の共通感染症研究会．東京，2008.11.
 - 8) 谷口清州：感染症便り（講演）．日本小児科学会東京地方会．東京，2008.12.
 - 9) 谷口清州：感染症便り（講演）．日本小児科学会東京地方会．東京，2009.2.
 - 10) 谷口清州：感染症便り（講演）．日本小児科学会東京地方会．東京，2009.3.
 - 11) 神谷元、中野貴司、井上正和、神谷敏也、井戸正流、神谷齊：三重県下2病院におけるロタウイルス感染による急性胃腸炎の5歳未満児入院例の調査結果．第12回日本ワクチン学会．熊本県熊本市，2008.11.
 - 12) 森兼啓太：MRSA の積極的監視培養とその結果に基づく隔離がMRSA 保菌・感染率に及ぼす影響（講演）．大磯フォーラム．東京，2008.4.
 - 13) 森兼啓太：新型インフルエンザにどう備えるか（講演）．第51回鳥取県公衆衛生学会．鳥取県米子市，2008.7.
 - 14) 森兼啓太：新型インフルエンザへの対応—準備はできていますか（講演）．第11回札幌感染管理研究会．北海道札幌市，2008.7.
 - 15) 森兼啓太：高齢者施設での感染症とその予防・対策（講演）．島根県介護老人保健施設研究大会．島根県松江市，2008.7.
 - 16) 森兼啓太：鳥インフルエンザの脅威（講演）．第11回鳥取県中部院内感染防止研究会．鳥取県倉敷市，2008.7.
 - 17) 森兼啓太：院内感染アップデート（研修講演）．第6回日本医療マネジメント学会高知県地方会．高知県高知市，2008.8.
 - 18) 森兼啓太：サーベイランス：基礎から応用まで（講演）．第8回院内感染防止対策に関する講演会．鹿児島県鹿児島市，2008.8.
 - 19) 森兼啓太：新型インフルエンザ～準備はできていますか？（講演）．第3回西多摩 Infection Control Forum．東京都八王子市，2008.9.
 - 20) 森兼啓太：手術部位感染に関する最新情報（講演）．第30回日本手術医学会．東京，2008.9.
 - 21) 森兼啓太：手術部位感染対策アップデート（講演）．第7回 EBIC ワークショップ．神奈川県，2008.10.
 - 22) 森兼啓太、渡辺都貴子、高野八百子、針原康、小西敏郎：手術部位感染サーベイランスにおけるデータ収集項目に対するリスク因子としての評価．第21回日本外科感染症学会．北海道札幌市，2008.11.
 - 23) 森兼啓太：手術部位感染対策アップデート（特別講演）．第7回上越 Infection Control フォーラム．新潟県上越市，2008.11.
 - 24) 森兼啓太：今なぜMRSAなのか？その現状、感染対策、治療（特別講演）．第2回長崎感染症リスクマネジメント研究会．長崎県長崎市，2008.12.
 - 25) 森兼啓太、谷口弘美、上野一枝、宮田貴紀、前多

- 香、家入裕子、高橋陽一、大澤忠、高橋由美子、藤木くに子、細田清美、北村真理、操華子、崎浜智子、印田宏子：透析関連感染サーベイランスシステムの構築。第24回日本環境感染学会。神奈川県横浜市，2009.2.
- 26) 森兼啓太：透析施設における血液媒介感染とその伝播防止：C型肝炎を中心に(シンポジウム)。第24回日本環境感染学会。神奈川県横浜市，2009.2.
- 27) 森兼啓太：積極的監視培養とその結果による接触予防策の有効性に関する文献的考察(シンポジウム)。第24回日本環境感染学会。神奈川県横浜市，2009.2.
- 28) 森兼啓太：諸外国における医療関連感染対策の現状(講演)。第7回東海院内感染対策フォーラム。愛知県名古屋市，2009.3.
- 29) 松井珠乃、佐藤弘、岡部信彦、安藤秀二、岸本寿男、山本正悟：宮崎県の内科標榜医療機関を対象としたつつが虫病・日本紅斑熱サーベイランスの認知度および診断・報告の現状。第82回日本感染症学会総会。島根県松江市，2008.4.
- 30) 松井珠乃：院内感染、アウトブレイク発生時のFETPの活動(講演)。第24回環境感染学会総会ベースリックレクチャー。神奈川県横浜市，2009.2.
- 31) 熊谷則道、橋本迪子、重松美加、飯田真里子、伊藤健一郎：海外渡航下痢症患者から分離された大腸菌の病原性関連遺伝子保有状況。第82回日本感染症学会総会。島根県松江市，2008.4.
- 32) 重松美加、安藤秀二：病原体取扱に際してのバイオセーフティとその国際的な潮流。第3回日本臨床検査学教育学会学術大会。福岡県福岡市，2008.8.
- 33) 堀成美、多田有希：若年層におけるHIV感染症の動向。第27回日本思春期学会。千葉県千葉，2008.8.
- 34) 菅原民枝、大日康史、多屋馨子、多田有希、安井良則、砂川富正、山本(上野)久美、町田和彦、臼井恒夫、扇原淳、小野充一、谷口清洲、岡部信彦：麻疹流行による大学休講期間中の大学生行動のタイムスタディの検討。第82回感染症学会総会。島根県松江市，2008.4.
- 35) 大日康史、菅原民枝、谷口清州、岡部信彦：救急車搬送における症候群サーベイランスの稼働と実用化評価。第82回感染症学会総会。島根県松江市，2008.4.
- 36) 児玉和夫、杉浦弘明、杉浦弘明、堀江卓史、菊池清、大日康史、菅原民枝、谷口清州、岡部信彦：症候群サーベイランスによる感染症流行の早期探知システムの地域での実用化と対応。第82回感染症学会総会。島根県松江市，2008.4.
- 37) 杉浦弘明、大日康史、菅原民枝、谷口清州、岡部信彦：学校欠席者群サーベイランスの構築。第82回感染症学会総会。島根県松江市，2008.4.
- 38) 菊池清、大日康史、菅原民枝、谷口清州、岡部信彦：院内感染対策としての症候群サーベイランスの早期探知の評価と高齢者施設での応用。第82回感染症学会総会。島根県松江市，2008.4.
- 39) 大日康史、菅原民枝：ムコ多糖症における費用対効果分析。第35回マスキング学会。島根県，2008.8.
- 40) 大日康史、菅原民枝：予防接種のもたらす費用対効果分析—水痘予防接種に対する公費補助制度の政策評価に焦点を当てて—。第15回ヘルペス感染症フォーラム。北海道札幌市。2008.8.
- 41) 大日康史、山口亮、杉浦弘明、菅原民枝、吉田眞紀子、島田智恵、堀成美、杉下由行、安井良則、砂川富正、松井珠乃、谷口清州、多田有希、多屋馨子、今村知明、岡部信彦：2008北海道洞爺湖サミットにおける症候群サーベイランス。第57回日本感染症学会東日本地方会学術集会。埼玉県さいたま市，2008.10.
- 42) 菅原民枝、大日康史、谷口清州、岡部信彦：新型インフルエンザ流行時における受療行動の選択と発熱外来設置の検討。第57回日本感染症学会東日本地方会学術集会。埼玉県さいたま市，2008.10.
- 43) 大日康史、杉浦弘明、菅原民枝他：インターネットアンケート調査による新しい症候群サーベイランスの構築と洞爺湖サミットでの運用。第28回医療情報学連合大会(第9回日本医療情報学会学術大会)。神奈川県横浜市，2008.11.

- 44) 大日康史、菅原民枝、島内康宏、尾崎貴視、谷口泰紀、三野正博、香川嘉宏：水痘予防接種に対する公費補助制度の政策評価。第12回ワクチン学会。熊本県熊本市，2008. 11.
- 45) 菅原民枝、大日康史、多屋馨子、山本久美、佐藤弘、安井良則、岡部信彦：百日咳発生データベースの構築と運用。第12回ワクチン学会。熊本県熊本市，2008. 11.
- 46) 菅原民枝、大日康史、杉浦弘明、谷口清州、岡部信彦、今村知明：学校欠席者症候群サーベイランスの構築。第67回公衆衛生学会。福岡県福岡市，2008. 11.
- 47) 大日康史、杉浦弘明他：インターネットアンケート調査による新しい症候群サーベイランスの構築と洞爺湖サミットでの運用。日本医療情報学会。神奈川県横浜市，2008. 11.
- 48) 大日康史、菅原民枝：院外処方箋情報を用いた感染症監視システム（基調講演）。日本薬局協会大会。2008. 8.
- 49) 大日康史：新型インフルエンザ拡大伝播モデルシミュレーション：全国版 -首都圏で患者一例目が発生したらどのように全国に拡大していくか-。第4回GISコミュニティフォーラム in 大阪。大阪府大阪市，2008. 5.
- 50) 大日康史：新型インフルエンザ拡大伝播モデルシミュレーション：全国版 -首都圏で患者一例目が発生したらどのように全国に拡大していくか-。第4回GISコミュニティフォーラム in 福岡。福岡県福岡市，2008. 5.
- 51) 大日康史：新型インフルエンザ拡大伝播モデルシミュレーション：全国版 -首都圏で患者一例目が発生したらどのように全国に拡大していくか-。第4回GISコミュニティフォーラム in 北海道。2008. 6.
- 52) 菅原民枝：新型インフルエンザ拡大伝播モデルシミュレーション：全国版 -首都圏で患者一例目が発生したらどのように全国に拡大していくか-。第4回GISコミュニティフォーラム in つくば。茨城県つくば市，2008. 5.
- 53) 多田有希：シンポジウム「STD サーベイランスを考える -サーベイランスから実態をどこまで把握できるか-」（梅毒）。日本性感染症学会第21回学術大会。東京都。2008. 12.
- 54) 多田有希：シンポジウム「梅毒血清反応の問題点」感染症法に基づく梅毒発生届けにおける問題点。日本性感染症学会第21回学術大会。東京都。2008. 12.
- 55) 安井良則：シンポジウムII成人ワクチン「麻疹」。第12回日本ワクチン学会学術集会。熊本県熊本市。2008. 11.
- 56) 安井良則：最近の百日咳の感染症発生動向調査結果について。第40回日本小児感染症学会学術集会。神奈川県横浜市。2008. 11.
- 57) 安井良則：保育園における感染症の現状と衛生管理・対策。全国保育園保健研究大会。2009. 1.
- 58) 島田智恵：海外渡航者の鳥インフルエンザに関する知識について。第12回日本渡航医学会学術集会。岡山県岡山市。2008. 7.
- 59) 杉下由行、多田有希、砂川富正、島田智恵、齊藤剛仁、岡部信彦：2007年における腸管出血性大腸菌感染症HUS症例の発生状況。第67回日本公衆衛生学会総会。福岡県福岡市，2008. 11.
- 60) 多屋馨子：シンポジウム・施設内感染防止対策としての予防接種を考える その問題点と対応麻疹、風疹、ムンプス、水痘ワクチン。第24回日本環境感染学会。神奈川県横浜市。2009. 2.
- 61) 多屋馨子：プレコングレス「医療安全」周産期からのウイルス感染予防。第27回日本周産期・新生児医学会周産期学シンポジウム。福島県郡山市。2009. 1.
- 62) 多屋馨子：シンポジウム2【テーマ：これからの予防接種はどうなるか】予防接種体制の目まぐるしい変遷。第40回日本小児感染症学会総会・学術集会。愛知県名古屋市。2008. 11.
- 63) 多屋馨子：学校での麻しん対策の実際。第55回日本学校保健学会。名古屋市。2008. 11.
- 64) 多屋馨子：シンポジウム・保育園での感染症とその対策 保育園で推奨される予防接種。第14回日本保育園保健学会。東京都千代田区。2008. 10.

- 65) 多屋馨子：2012年までに麻疹をゼロに！. 第55回日本小児保健学会. 北海道札幌市. 2008. 9.
- 66) 多屋馨子：わかりやすいワクチンの話—母親でもある小児科医からお母さんへ—. 第18回日本外来小児科学会年次集会市民公開講座. 愛知県名古屋市. 2008. 8.
- 67) 多屋馨子：Common Diseaseの最新知見 成人・年長児における麻疹流行. 第49回日本臨床ウイルス学会. 愛知県犬山市. 2008. 6.
- 68) 多屋馨子：最近の感染症情報. 第557回日本小児科学会東京都地方会講話会. 東京都文京区. 2008. 6.
- 69) 多屋馨子：日本における予防接種の現状と課題. 第4回日本小児科医会ワークショップ. 新潟県新潟市. 2008.
- 70) 多屋馨子：ワークショップ「日本脳炎ワクチンの展望」日本脳炎の国内における疫学. 第12回日本ワクチン学会. 熊本県熊本市. 2008. 11.
- 71) 多屋馨子：全国の麻疹の流行状況とその対策法. はしか、風疹・・・感染症から次世代を担う子供達を守ろう！県民公開 予防接種フォーラム in 大分. 大分県大分市. 2008. 12.
- 72) 多屋馨子：予防接種に関する最新の話～麻疹対策を中心に～. 第19回三河感染・免疫研究会. 愛知県豊田市. 2008. 7.
- 73) 多屋馨子：学校・家庭での麻しん対策. 横浜市学校保健会総会. 神奈川県横浜市. 2008. 6.
- 74) 多屋馨子：我が国の予防接種制度～新しい制度の紹介と今後の展望～. 第55回広島県小児科医会総会. 広島県広島市. 2008. 7.
- 75) 多屋馨子：院内感染対策としてのワクチン. 第23回大阪病院機能向上研究会. 大阪府大阪市. 2008. 9.
- 76) 多屋馨子：日本の麻疹の現状と対策. 国立国際医療センター・国立感染症研究所 共催 日中麻疹セミナー. 東京都新宿区. 2008. 12.
- 77) 多屋馨子：—麻疹・水痘などウイルス感染症の職業感染と施設内拡大への対応—ウイルス感染症の検査と予防投与の考え方. 第24回日本環境感染症学会<教育委員会主催講習会>. 2009. 2.
- 78) 佐藤 弘、多屋馨子、大野 剛、細川直登、岩田健太郎、岡部信彦：東京都および千葉県の麻疹患者における検査室診断の結果について. 第82回日本感染症学会. 島根県松江市. 2008. 4.
- 79) 佐藤 弘、多屋馨子、岡部信彦、小田切孝人、田代真人、感染症流行予測調査事業担当者グループ：2007/08 シーズン前インフルエンザ抗体保有状況（2007年度感染症流行予測調査事業より）. 第49回日本臨床ウイルス学会. 愛知県犬山市. 2008. 6.
- 80) 佐藤 弘、多屋馨子、駒瀬勝啓、田代真人、岡部信彦、感染症流行予測調査事業担当者グループ：わが国における麻疹および風疹に対する抗体保有状況（2007年度感染症流行予測調査事業より）. 第12回日本ワクチン学会. 熊本県熊本市. 2008. 11.
- 81) 佐藤 弘、多屋馨子、高崎智彦、倉根一郎、岡部信彦、感染症流行予測調査事業担当者グループ：わが国におけるヒトおよびブタの日本脳炎抗体保有状況（2007年度感染症流行予測調査事業より）. 第40回日本小児感染症学会. 愛知県名古屋市. 2008. 11.
- 82) 新井 智：Genetic diversity of Camp Ripley virus, a newfound hantavirus harbored by the northern short-tailed shrew in north America. 第82回日本感染症学会. 島根県松江市. 2008. 4.
- 83) 新井 智、多屋馨子、岡部信彦：日本脳炎生ワクチン株に認められたアミノ酸変異. 第146回日本獣医学会. 宮崎県宮崎市. 2008. 9.
- 84) 新井 智、大舘智志、浅川満彦、有川二郎、Gabor Mocz, 岡部信彦, Richard Yanagihara: Newfound Hantavirus Sequences in the Japanese Shrew Mole (*Urotrichus talpoides*). 第56回日本ウイルス学会. 岡山県岡山市. 2008. 10.
- 85) 新井 智、多屋馨子、岡部信彦：家畜用日本脳炎生ワクチン株に認められたアミノ酸変異. 第12回日本ワクチン学会. 熊本県熊本市. 2008. 11.
- 86) 山本久美、多屋馨子、菅原民枝、大日康史、安井

- 良則、西藤なるを、砂川富正、岡部信彦：「麻疹発生データベース」における麻疹症例報告状況と麻疹対策に果たした役割。第82回日本感染症学会。島根県松江市。2008。4.
- 87) 山本久美、多屋馨子、岡部信彦：関東地域に所在する二高校の2年生に対する麻疹意識調査。第49回日本臨床ウイルス学会。愛知県犬山市。2008。6.
- 88) 山本久美、多屋馨子、島田智恵、岡部信彦：2007年度第2期麻疹風疹ワクチン接種状況から見た麻疹患者発生。第12回日本ワクチン学会。熊本県熊本市。2008。11.
- 89) 山本久美、多屋馨子、大日康史、菅原民枝、佐藤弘、安井良則、岡部信彦：「百日咳データベース」による全国の百日咳発生状況の把握。第40回小児感染症学会。愛知県名古屋市。2008。11.
- 90) 藤本嗣人、浜井いつき、谷口清州、近平雅嗣、岡部信彦：新たに開発したPCRシステム(Hyper-PCR)とそのアデノウイルス診断への応用。第56回日本ウイルス学会学術集会。岡山県岡山市。2008。10.
- 91) 井内田科子、松野重夫、岡部信彦：2シーズンにおける感染性胃腸炎定点報告の地理的広がり。第56回日本感染症学会東日本地方会総会。埼玉県さいたま市。2008。10.
- 92) 村上裕子、松野重夫：海産プランクトンからのノロウイルスの検出。第82回日本感染症学会総会。島根県松江市。2008。4.
- 93) 村上裕子、松野重夫、岡部信彦：急性胃腸炎患者、カキ、プランクトンから検出されたノロウイルス遺伝子型の比較。第56回日本ウイルス学会学術集会。岡山県岡山市。2008。10.
- 94) 飯田真里子、鈴木理恵子、磯部順子、勢戸和子、河野喜美子、成松浩志、伊藤健一郎、岡部信彦、岡村登：腸管病原性大腸菌の局在性付着関連遺伝子*bfpA*の多型と表現型解析。第82回日本感染症学会総会、島根県松江市、2008。4.
- 95) 泉谷秀昌、多田有希、伊藤健一郎、寺島淳、渡邊治雄：渡航者由来赤痢菌の遺伝子型別。第82回日本感染症学会総会、島根県松江市、2008。4.
- 96) 熊谷則道、橋本迪子、重松美加、飯田真里子、伊藤健一郎：海外渡航下痢症患者から分離された大腸菌の病原性関連遺伝子保有状況。第82回日本感染症学会総会、島根県松江市、2008。4.
- 97) 木村博一：有機リンの慢性毒性について一文献的考察。有機リン・シックハウス症候群の最前線(群馬県主催)。群馬県前橋市。2008。5.

III. その他

- 1) 感染症情報センター：高病原性鳥インフルエンザ。WHO 更新情報, 2008.4-2009.3.
[http://idsc.nih.go.jp/disease/avian_influenza/toriinf-woup03.html]
- 2) 感染症情報センター：高病原性鳥インフルエンザ。新着情報, 2008.4-2009.3.
[http://idsc.nih.go.jp/disease/avian_influenza/index.html][http://idsc.nih.go.jp/disease/avian_influenza/toriinf-map.html]
- 3) 感染症情報センター：トリインフルエンザの分布図, 2008.4-2009.3.
http://idsc.nih.go.jp/disease/avian_influenza/toriinf-map01.html
- 4) 感染症情報センター：インフルエンザQ&A「一般向け」・「医療従事者向け」。(平成20年1月改訂)
[<http://idsc.nih.go.jp/disease/influenza/fluQA/index.html>]
- 5) 佐藤 弘、北本理恵、山本久美、新井 智、多屋馨子：ブタの日本脳炎 HI 抗体保有状況 (速報)。第1報：2008.7.4—第18報：2008.11.28。
[<http://idsc.nih.go.jp/yosoku/JE/JEmenu-sw.html>]
- 6) 佐藤 弘、北本理恵、多屋馨子：流行シーズン前インフルエンザ HI 抗体保有状況 (速報)。第1報：2008.11.28—第3報：2009.1.23。
[<http://idsc.nih.go.jp/yosoku/Flumenu.html>]
- 7) 佐藤 弘、北本理恵、山本久美、新井 智、多屋馨子：ポリオ、日本脳炎、風疹、麻疹の抗体保有状況、予防接種状況。
[<http://idsc.nih.go.jp/yosoku/index.html>]
- 8) 前田明日香、多屋馨子、佐藤 弘、山本久美、岡部

- 信彦：日本の定期/任意予防接種スケジュール（2008.4.1以降）。
[<http://idsc.nih.go.jp/vaccine/dschedule/Imm08JP.gif>]
- 9) 前田明日香, 多屋馨子, 山本久美, 岡部信彦：麻疹・風疹ワクチンキャンペーンポスター。
[<http://idsc.nih.go.jp/vaccine/cpn07/2008vaccine-poster.pdf>]
- 10) 多屋馨子, 山本久美, 砂川富正, 安井良則, 多田有希, 松井珠乃, 島田智恵, 岡部信彦：医療機関での麻疹対応について（第二版）
[http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/guideline/hospital_ver2.pdf]
- 11) 多屋馨子, 山本久美, 安井良則, 砂川富正, 岡部信彦：国立感染症研究所感染症情報センター作成、文部科学省・厚生労働省監修、学校における麻疹対策ガイドライン
[http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/guideline/hospital_ver2.pdf]
- 12) 砂川富正, 山本久美, 安井良則, 多田有希, 島田智恵, 松井珠乃, 多屋馨子, 谷口清州, 岡部信彦：国立感染症研究所感染症情報センター、厚生労働省結核感染症課：都道府県における麻疹対策会議のガイドライン
[http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/guideline/prefecture_200805.pdf]
- 13) 安井良則, 砂川富正, 山本久美, 島田智恵, 多屋馨子, 多田有希, 谷口清州, 岡部信彦：国立感染症研究所感染症情報センター：麻疹排除に向けた積極的疫学調査ガイドライン第二版。
[http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/guideline/active_ver2.pdf]
- 14) 多田有希, 島田智恵, 安井良則, 山本久美, 多屋馨子, 谷口清州, 山下和予, 岡部信彦：国立感染症研究所感染症情報センター：医師における麻疹届出ガイドライン第二版
[http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/guideline/doctor_ver2.pdf]
- 15) 砂川富正, 多屋馨子, 多田有希, 安井良則, 山本久美, 岡部信彦：国立感染症研究所感染症情報センター・厚生労働省結核感染症課：ブロック会議関連資料
等 [http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/bloc/measlesBloc.html]
- 16) 山本久美, 多屋馨子, 佐藤弘, 山本明史, 岡部信彦：麻疹教育啓発ビデオ「はしかから身を守るために」（DVD, 動画）
[<http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/Video/measlesVideo.html>]
- 17) 山本明史, 山本久美, 多屋馨子, 岡部信彦：麻疹排除ロゴマーク（日本語版, 英語版）。<http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>
- 18) 山本明史, 山本久美, 多屋馨子, 岡部信彦：麻疹排除に向けての標語「はしかにならない！はしかにさせない！」
[<http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>]
- 19) 多屋馨子, 岡部信彦, 高崎智彦, 倉根一郎, 厚生労働省結核感染症課：日本脳炎Q&A[<http://idsc.nih.go.jp/disease/JEncephalitis/QAJE.html>]